

講 義 要 綱

授業科目名	ミクロ経済学Ⅰ (2単位)	開講時期	秋学期 月曜日1時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	田村 彌 (大学院経済学研究科)	office hour	月曜 11:30~12:30

【講義の目的】

ミクロ経済学は、価格理論とインセンティブ理論の2つの柱からなる学問分野であり、経済学全般の基礎理論と位置づけられています。本講義では、効率的な資源配分と市場メカニズムの機能を分析する価格理論の基礎的分析力を育成することを目的とします。

【授業内容】

- 1 ガイダンス / ミクロ経済学とは
- 2 価格比と限界代替率
- 3 効用最大化問題
- 4 代替効果と所得効果
- 5 弾力性
- 6 消費者の厚生評価
- 7 パレート効率性
- 8 競争均衡と厚生経済学の基本定理
- 9 生産関数
- 10 費用関数
- 11 損益分岐価格と操業停止価格
- 12 生産者余剰
- 13 生産者理論の復習
- 14 生産も含む一般均衡分析
- 15 まとめと応用

【成績評価方法】

課題、授業の参加、定期試験に基づき評価します。履修取り下げ制度は採用しません。定期試験を受験しなければ「欠席」となります。

【予備学習の指示】

【教科書・参考書】

- [1] 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社
- [2] 神戸伸輔・寶多康弘・濱田弘潤『ミクロ経済学をつかむ』有斐閣

【履修条件・注意事項】

授業科目名	ミクロ経済学Ⅱ (2単位)	開講時期	春学期 木曜日1時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	花崗 誠 (大学院経済学研究科)	office hour	アポイントメント による

【講義の目的】

ミクロ経済学は、個々の経済構成員の合理的な意思決定、およびそれらの対立や調和といった「相互連関」の分析を通じて、経済社会の働きについて理解するための基礎理論である。完全競争市場における消費者・生産者行動・及び市場均衡の理解を前提として、不完全競争市場における経済行動、外部効果とその影響、公共財、情報の非対称性等の基本事項の習得、および基礎的分析力の育成を目指す。

【授業内容】

- 1 序論および復習1：需要と供給
- 2 復習2：完全競争市場、余剰分析
- 3 課税（従量、従価）

- 4 不完全競争市場1：独占
- 5 不完全競争市場2：差別化と競争
- 6 不完全競争市場3：寡占（クールノー競争）
- 7 不完全競争市場4：寡占（ベルトラン競争、シュタッケルベルグ競争）
- 8 外部効果：環境問題、研究開発との関連に留意して
- 9 公共財とただ乗り問題：
- 10 自然独占、公益事業の経済学
- 11 情報の経済学1：モラルハザード
- 12 情報の経済学2：アドバースセクション
- 13 情報の経済学3：スクリーニング
- 14 予備日
- 15 まとめ

【成績評価方法】

講義中の小テスト（3回、マーク式）、期末試験（マーク式、記述式）履修取り下げ制度を適用しない。

【予備学習の指示】

担当教員のウェブサイトに講義スライドをアップロードするので、各自必要に応じて印刷し、予習復習に役立てること。

【教科書・参考書】

教科書：特に指定しない。

参考書：多和田眞「コアテキスト・ミクロ経済学」新生社。神取道宏「ミクロ経済学の力」日本評論社

【履修条件・注意事項】

ミクロ経済学Ⅰ、経済数学A,Bを履修していることが望ましい

授業科目名	マクロ経済学Ⅰ (2単位)	開講時期	秋学期 火曜日5時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	玉井 寿樹 (大学院経済学研究科)	office hour	火曜日2時限

【講義の目的】

マクロ経済学は一国の経済活動全体を分析対象としている。本講義ではマクロ経済学の基礎を学修し、マクロ経済の分析および上級学年で開講される専門基礎科目・専門科目の学修に必要な基礎的分析力を育成することを目的とする。

【授業内容】

- 1 ガイダンス：マクロ経済学とは
- 2 マクロ経済学のデータ
- 3 GDPの測定(1)
- 4 GDPの測定(2)
- 5 物価水準の測定(1)
- 6 物価水準の測定(2)
- 7 消費理論
- 8 投資理論
- 9 財市場
- 10 貨幣市場
- 11 財・貨幣市場均衡(1)：IS-LMモデル
- 12 財・貨幣市場均衡(2)：IS-LMモデルの応用
- 13 財・貨幣市場均衡(3)：IS-LMモデルの応用
- 14 開放経済(1)
- 15 開放経済(2)

【成績評価方法】

授業中課題（2回・20%）定期試験（80%）履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

NUCTを通じて講義資料を配布するので、事前に資料を準備・学習しておくことが望ましい。

【教科書・参考書】

- [1] N.G.マンキュー 著 足立英之 他 訳『マクロ経済学I入門篇(第4版)』東洋経済新報社 (2017年)
 [2] 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久 著『マクロ経済学 新版』有斐閣 (2016年)

【履修条件・注意事項】

特になし。

授業科目名	マクロ経済学Ⅱ (2単位)	開講時限	春学期 月曜日 2時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	清水 克俊 (大学院経済学研究科)	office hour	講義後 または 月曜 3時限 (事前メール)

【講義の目的】

日本経済や世界経済の観点から、マクロ経済のメカニズムについて基礎的知識を獲得し、現実のマクロ経済の動向について簡単な理解ができるようになることを通じて基礎的分析力を育成することを目的とする。

【授業内容】

- 1 マクロ経済学の諸問題：概観
- 2 日本経済の消費・貯蓄
- 3 日本経済の投資
- 4 日本経済の総供給と総需要
- 5 日本経済のインフレ率
- 6 日本経済の景気循環
- 7 日本の金融政策
- 8 日本経済と為替レート
- 9 世界経済と経済成長
- 10 経済成長の諸問題
- 11 国際マクロ経済の諸問題
- 12 財政・年金問題と日本経済
- 13 日本経済の労働問題
- 14 マクロ経済分析のフレームワーク
- 15 まとめ 日本のマクロ経済分析の課題

【成績評価方法】

ミニテストおよび最終試験（またはレポート）の点数により学習到達度の観点から単位を付与する。
履修取り下げ制度を採用する。

【予備学習の指示】

配布資料を事前、事後に確認すること。また、練習問題を解くこと。

【教科書・参考書】

教科書：授業スライドをダウンロードすること。
参考書：マクロ経済学 齊藤誠他（有斐閣）、マクロ経済学 二神孝一・堀敬一（有斐閣）

【履修条件・注意事項】

特になし。

授業科目名	計量経済Ⅰ (2単位)	開講時限	秋学期 水曜日 5時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	爲近 英恵 (名古屋市立大学)	office hour	

【講義の目的】

現実の経済現象のメカニズムについてデータを用いて分析することにより明らかにすることができるが、そのためには、分析に必要な計量経済学を習得する必要がある。本講義では、実証分析に必要な基礎的分析力を育成する。計量経済学の理論を習得し、習得した計量経済学手法を用いて、実証分析を行うことができるようになることが本講義の目的である。

【授業内容】

- 1 計量経済学とは
- 2 記述統計（1）
- 3 記述統計（2）
- 4 最小二乗法（1）
- 5 最小二乗法（2）
- 6 標準的仮定と最小二乗法推定量の性質（1）
- 7 標準的仮定と最小二乗法推定量の性質（2）
- 8 標準的仮定と最小二乗法推定量の性質（3）
- 9 t検定（1）
- 10 t検定（2）
- 11 多重共線性
- 12 定式化の誤り
- 13 F検定（1）
- 14 F検定（2）
- 15 まとめ

【成績評価方法】

期末試験100%で評価する。
履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

講義の内容を復習し、課題に取り組むこと。

【教科書・参考書】

羽森茂之『ベーシック計量経済学（第2版）』中央経済社

【履修条件・注意事項】

進捗状況に応じて、講義内容を変更する場合がある。

授業科目名	計量経済Ⅱ (2単位)	開講時限	春学期 月曜日 3時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	園田 正 (大学院経済学研究科)	office hour	月曜日 1時限

【講義の目的】

この講義では、計量経済Ⅰで学んだ計量経済学の方法を基礎として、より妥当な仮定の下で統計的推測や仮説検定を行う方法を学び、基礎的分析力を育む。

【授業内容】

- 1 計量経済Ⅰの復習①
- 2 計量経済Ⅰの復習②
- 3 不均一分散①

- 4 均一分散②
- 5 計量経済分析の実践
- 6 時系列データの分析①
- 7 時系列データの分析②
- 8 時系列データの分析③
- 9 時系列データの分析④
- 10 パネルデータ分析①
- 11 パネルデータ分析②
- 12 操作変数法①
- 13 操作変数法②
- 14 因果関係とその大きさの推定①
- 15 因果関係とその大きさの推定②

【成績評価方法】

期末試験の成績による。履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

特になし。

【教科書・参考書】

必要があれば講義で紹介する。

【履修条件・注意事項】

特になし。

授業科目名	政治経済学Ⅰ (2単位)	開講時限	秋学期 金曜日 4時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	藤田 真哉 (大学院経済学研究科)	office hour	金曜日 12時～13時

【講義の目的】

本授業では、古典派政治経済学の価格理論と分配理論を概説する。すなわち、諸商品の価格がどのように決まり、所得が労働者と使用者との間でどのように分配されるか、という経済学上の根本的な問題について、リカードやマルクスから新リカード派に至る政治経済学の視点に基づき、その答えに辿りつく基礎的分析力を育成することを目標としている。

【授業内容】

- 1 ガイダンス
- 2 経済学の基礎用語
- 3 政治経済学における人間観と社会観Ⅰ
- 4 政治経済学における人間観と社会観Ⅱ
- 5 スミスとリカードの価値論
- 6 マルクスの分配論Ⅰ
- 7 マルクスの分配論Ⅱ
- 8 マルクスの分配論Ⅲ
- 9 小括
- 10 新リカード派の価格理論Ⅰ
- 11 新リカード派の価格理論Ⅱ
- 12 新リカード派の価格理論Ⅲ
- 13 ケンブリッジ資本論争
- 14 企業と労使関係
- 15 まとめ

【成績評価方法】

期末試験により評価する。また、履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

特になし。

【教科書・参考書】

教科書：特に指定せず、レジュメをNUCTにて毎回配布する。

参考書：八木紀一郎著『社会経済学：資本主義を理解する』名古屋大学出版会

宇仁宏幸ほか著『入門社会経済学：第二版』ナカニシヤ出版

【履修条件・注意事項】

特になし。

授業科目名	政治経済学Ⅱ (2単位)	開講時限	春学期 月曜日 4時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	鍋島 直樹 (大学院経済学研究科)	office hour	月曜日 16:30～17:30

【講義の目的】

マルクス、ケインズ、カレッキの流れを汲む政治経済学のアプローチにもとづき、資本主義経済の基礎理論、および現代資本主義の構造変化について解説する。資本主義経済の仕組みについての基礎的分析力を養うことを目的とする。

【授業内容】

- 1 資本蓄積と国民所得決定の理論(1)——マルクスの再生産表式論
- 2 資本蓄積と国民所得決定の理論(2)——ケインズの「有効需要の原理」
- 3 資本蓄積と国民所得決定の理論(3)——カレッキの所得決定理論
- 4 失業とインフレーション(1)——資本蓄積と産業予備軍
- 5 失業とインフレーション(2)——現代資本主義と産業予備軍効果
- 6 失業とインフレーション(3)——インフレーションとデフレーションの理論
- 7 所得分配(1)——マルクスの分配理論
- 8 所得分配(2)——カレッキの独占度理論
- 9 所得分配(3)——カルドアのマクロ的分配理論
- 10 景気循環と経済成長(1)——マルクスの周期的恐慌論
- 11 景気循環と経済成長(2)——ケインズ派の景気循環理論
- 12 景気循環と経済成長(3)——経済成長の理論
- 13 資本主義の構造変化(1)——レギュレーション理論の概念と方法
- 14 資本主義の構造変化(2)——フォーディズムの成長と危機
- 15 資本主義の構造変化(3)——アフター・フォーディズムの時代

【成績評価方法】

期末試験により評価する。履修取り下げ制度を採用しないので、期末試験を受験しない者は「欠席」となる。

【予備学習の指示】

特になし。

【教科書・参考書】

宇仁宏幸・坂口明義・遠山弘徳・鍋島直樹『入門社会経済学——資本主義を理解する〔第2版〕』ナカニシヤ出版、を教科書として使用する。参考文献については、講義中に指示する。

【履修条件・注意事項】

政治経済学Ⅰを履修済みであることを前提として講義を進める。

授業科目名	一般経済史Ⅰ (2単位)	開講時限	秋学期 月曜日 4時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	木越 義則 (大学院経済学研究 科)	office hour	随時

【講義の目的】

この講義では、古代から現代に至る世界史を経済の動きから理解します。西洋と東洋それぞれの物質文明の形成過程について俯瞰的に理解するための基礎的分析力を育成することを目的とします。

【授業内容】

- 1 経済史学とは何か
- 2 地球と文明
- 3 ヨーロッパの近世
- 4 アジアの近世
- 5 産業革命
- 6 アジアの開国と開港
- 7 日本の産業革命
- 8 帝国主義下の世界経済
- 9 中国の産業革命
- 10 大企業体制の形成
- 11 世界恐慌と世界大戦
- 12 パクス・アメリカーナ
- 13 アジアの経済発展
- 14 グローバル・ヒストリー
- 15 計量経済史と制度の歴史

【成績評価方法】

期末試験で評価します。履修取り下げ制度は採用しません。

【予備学習の指示】

高校の社会科（世界史・政経）の予備知識があることが望ましいが、一般向けの世界史の概説書（新書・文庫）を通読するのも良い。

【教科書・参考書】

教科書：河崎信樹・奥和義編『一般経済史』ミネルヴァ書房、2018年。

【履修条件・注意事項】

初回の授業時に詳しく解説します。

授業科目名	一般経済史Ⅱ (2単位)	開講時限	春学期 金曜日 3時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	福澤 直樹 (大学院経済学研究 科)	office hour	木曜日13:30～14:30 金曜日10:30～11:30 (金曜日は要予約)

【講義の目的】

現代のさまざまな社会経済問題は、その現象だけを見て理解できるものではない。「経済史」という学問領域の一般的な枠組を学習することを通じて、そうしたさまざまな問題の根源や経緯を歴史的・論理的に捉える素養や視点、方法論を身に付け、現代経済社会を構造的・立体的に認識するための基礎的分析力を育成することがこの講義の目的である。

【授業内容】

- 1 経済史における歴史認識のあり方とその意義
- 2 前近代と共同体／共同体の解体と近代の胎動

- 3 市民革命と産業革命／近代化とは
- 4 19世紀の世界経済の構造
- 5 19世紀末大不況と各国・各地域の反応 世界経済の不均衡と帝国主義
- 6 第一次大戦後の世界経済と1930年代大不況 ニューディール・ファシズム・社会主義
- 7 戦後経済体制の確立 高度経済成長と冷戦・南北問題 低成長期の到来と新たな世界経済の構造
- 8 近現代市場経済の諸問題と国家介入—歴史的に見られた自由主義経済秩序の諸相
- 9 近現代市場経済の諸問題と国家介入—市場のコーディネーションと国家
- 10 福祉のコーディネーションと社会経済—社会保険の諸領域と諸原則 市場の失敗とその克服
- 11 福祉のコーディネーションと社会経済—近代的経済社会の生成と社会福祉
- 12 信用システムの生成と展開—信用貨幣の発展・中央銀行の生成と金融政策の形成
- 13 信用システムの生成と展開—国際通貨制度の発展
- 14 経済認識の展開と現代
- 15 まとめ

【成績評価方法】

期末試験により学習達成度（講義の内容をどれだけ理解し、自身の歴史認識に活かすことができるようになったか）を点検し、主にその成績により評価するが、（可能な限り）講義出席他、総合的な学習状況も加味して判断する。なお、履修取り下げ制度は採用しない。期末試験を受験しない場合は「欠席」となる。

【予備学習の指示】

毎回、次回に向けての予習箇所を指示するので、その部分を必ず読んでくること。それを前提として授業を進める。

【教科書・参考書】

金井雄一 / 中西聡 / 福澤直樹『世界経済の歴史—グローバル経済史入門』名古屋大学出版会、2010年を教科書とする。またNUCTを用いた教材の配布も行う。参考書、推薦図書等は講義中で紹介する。

【履修条件・注意事項】

中学の社会科レベルの歴史の知識は必要。（高校の世界史ほど詳しくなくてよい。）必要に応じて中・高生時代の教科書、資料集、またはそれに準じる市販の書籍を用意することを強く勧める。

授業科目名	経営Ⅰ (2単位)	開講時限	秋学期 月曜日 3時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	涌田 幸宏	office hour	質問は講義中に受け付ける

【講義の目的】

本講義では、経営学をはじめて学ぶ学部1年生を対象として、経営戦略論を中心とした基礎的概念を詳しく説明する。理論だけではなく、具体的な企業活動の事例を示し、受講者とのディスカッションを通じて、企業経営に関する基礎的分析能力を養成する。

【授業内容】

- 1 イントロダクション
- 2 顧客の明確化
- 3 業界構造の分析
- 4 事業戦略の基礎
- 5 戦略的事業システムの構築
- 6 製品ライフサイクル別戦略

- 7 事業ドメインの設定
- 8 中間テスト
- 9 戦略の資源アプローチ
- 10 企業の成長戦略
- 11 企業の資源展開戦略
- 12 資源蓄積のダイナミズム
- 13 イノベーションのプロセスとパターン
- 14 イノベーションの企業競争力への影響
- 15 総括

【成績評価方法】

中間テスト（40%）、期末試験（60%）
履修取り下げ制度は採用しない。

【予備学習の指示】

特になし。

【教科書・参考書】

嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎『1からの戦略論（第2版）』中央経済社
伊丹敬之『経営戦略の論理（第4版）』日本経済新聞社

【履修条件・注意事項】

授業中の私語、大幅な遅刻は厳禁。毎回出席できること。

授業科目名	経営Ⅱ (2単位)	開講時期	春学期 金曜日4時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	川崎 綾子 (大学院経済学研究科)	office hour	講義後(要予約)

【講義の目的】

本講義では経営学の理論の習得を通して、現在の企業社会に関する基礎的な分析力の育成を目指す。

【授業内容】

- 1 導入 / 単位取得に関する注意事項（出席シートについて）
- 2 経営の目的（1） / 顧客価値の提供
- 3 経営の目的（2） / 価値提供のための組織づくり
- 4 人のマネジメント（1） /モチベーション
- 5 人のマネジメント（2） / リーダーシップ
- 6 組織デザインと分業 / 外部業者の活用
- 7 環境変化と組織間関係 / 資源依存理論、同型化
- 8 ソーシャル・ネットワーク / 埋め込み理論と信頼
- 9 つながりの強さ / 「弱いつながりの強さ」理論、人や組織間の境界連結
- 10 製品開発（1） / プロデューサー、ゲートキーパー、プロダクトマネジャー
- 11 製品開発（2） / 多角化戦略、業界標準
- 12 売れる製品・売れるしくみづくり / マーケティング戦略
- 13 流通（1） / コンビニエンス・ストア
- 14 流通（2） / SPAの仕組み
- 15 まとめ

【成績評価方法】

履修取り下げ制度は採用しない。レポート、期末試験、出席状況に基づいて評価する。毎回の講義で各自の出席シートに、質問に対する解答を記入してもらおう。期末試験を受験しない場合は「欠席」となる。

【予備学習の指示】

経営Ⅰを受講済みであることが望ましい。

【教科書・参考書】

教科書は指定しないが、講義資料はNUCTに掲載するので事前に印刷しておくこと（講義資料は括弧抜きになっており、毎回の講義で解答を示す）。参考書は講義内で紹介する。

【履修条件・注意事項】

私語を2回注意された場合、その日は「欠席」となる。3回以上注意されたり、毎回の講義で注意を受けたりするような者には単位を認めない。また2回の遅刻を、1回の欠席として数える。講義やテスト中の携帯・スマートフォンの操作は厳禁とする。

授業科目名	会計Ⅰ (2単位)	開講時期	春Ⅰ期 金曜日1・2時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	野口 晃弘 (大学院経済学研究科) 古賀 正夫	office hour	月曜日 13:30~14:30 要予約。

【講義の目的】

財務諸表は企業の財政状態や経営成績を表します。財務諸表の作成手続きや財産管理の基礎を学習し、経営分析をするための基礎力を身につけます。この講義を受講することで、会計数値に強くなり、卒業後の実社会での役立ちも期待できます。簿記には検定試験等がありますので、具体的な目標を持った学習をする機会も得られます。

【授業内容】

- 1 簿記の目的・取引・仕訳・勘定・試算表
- 2 商品売買・現金・預金
- 3 手形の記帳方法
- 4 有価証券・その他の債券債務・収益および費用、訂正仕訳
- 5 演習1
- 6 主要簿・補助簿（補助記入帳と補助元帳）・伝票（3伝票・5伝票）
- 7 伝票・補助簿・試算表の総まとめ
- 8 演習2
- 9 決算整理（売上原価）・清算表・貸倒れなど
- 10 決算整理（減価償却・費用収益の見越し繰延べ）
- 11 演習3
- 12 決算（精算表の作成）
- 13 決算（損益計算書・貸借対照表の作成）
- 14 演習4
- 15 テスト

【成績評価方法】

講義最終日に実施されるテストで評価します。簿記の検定試験合格、授業時間内に随時実施する小テストについては成績評価の際に参考にします。履修取り下げ制度を適用しません。講義最終日に実施されるテストを受験しない場合、欠席と評価します。

【予備学習の指示】

毎回、授業後の「復習」をして下さい。また、次回の範囲をしますので、「予習」をして授業に参加して下さい。

【教科書・参考書】

教科書『簿記3級テキスト・問題集・解答集』『ステップアップ問題集』『答練問題』
参考書 佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本』日経文庫。

【履修条件・注意事項】

計算問題が多いので電卓が必要です。また、講義中に重要な連絡をすることがあります。講義に欠席した場合には、そのような連絡事項について、各自の責任で把握しておいて下さい。

授業科目名	会計Ⅱ (2単位)	開講時期	秋Ⅰ期 水曜日1・2時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	野口 晃弘 (大学院経済学研究科) 古賀 正夫	office hour	月曜日 13:30～14:30 要予約。

【講義の目的】

この講義では、日商簿記検定2級レベルの商業簿記の知識を習得し、会計（財務会計）についての基礎的分析力を育成すること、および、公認会計士などの国家試験への足がかりとすることを目的とします。また、日商簿記検定2級の受験準備にもなります。

【授業内容】

- 1 簿記一巡
- 2 無形資産・繰延資産・引当金
- 3 資本会計
- 4 負債会計
- 5 財務諸表
- 6 本支店会計
- 7 帳簿組織
- 8 伝票会計
- 9 収益認識
- 10 特殊商品売買
- 11 消費税・研究開発費・有価証券
- 12 固定資産・手形
- 13 総合演習(1)
- 14 総合演習(2)
- 15 テスト

【成績評価方法】

講義最終日に実施されるテストで評価します。簿記の検定試験合格、授業時間内に随時実施する小テストについては成績評価の際に参考にします。履修取り下げ制度を適用しません。講義最終日に実施されるテストを受験しない場合、欠席と評価します。

【予備学習の指示】

毎回、授業後の「復習」をして下さい。また、次回の範囲をしますので、「予習」をして授業に参加して下さい。

【教科書・参考書】

教科書『簿記2級（商業簿記）テキスト・問題集・解答集』『ステップアップ問題集』『答練問題』
参考書 佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本』日経文庫。

【履修条件・注意事項】

計算問題が多いので電卓が必要です。また、講義中に重要な連絡をすることがあります。講義に欠席した場合には、そのような連絡事項について、各自の責任で把握しておいて下さい。

授業科目名	財務諸表Ⅰ (2単位)	開講時期	春Ⅱ期 金曜日1・2時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	小沢 浩 (大学院経済学研究科) 古賀 正夫	office hour	金曜日 13:30～14:30

【講義の目的】

この講義では、日商簿記検定2級レベルの工業簿記の知識を習得し、会計（管理会計）についての基礎的分析力を育成すること、および、公認会計士などの国家試験への足がかりとすることを目的とします。

また、日商簿記検定2級の受験準備にもなります。

【授業内容】

- 1 工業簿記と原価計算・原価・工業簿記の勘定体系（個別原価計算）
- 2 材料と材料費・材料の購入原価の計算と記帳・材料費の計算と記帳
- 3 労務費・賃金給料の支払額の計算・賃金給料の消費額の計算
- 4 経費会計・製造間接費会計
- 5 個別原価計算・個別原価計算における仕損・賃金給料の消費額の計算
- 6 部門別計算・工場会計の独立
- 7 総合演習(1)
- 8 工業簿記の勘定体系（総合原価計算）
- 9 仕掛品の評価・材料の投入方法
- 10 正常減損・正常仕損・工程別総合原価計算
- 11 組別総合原価計算・等級別総合原価計算
- 12 標準原価計算
- 13 損益分岐点分析・直接原価計算
- 14 総合演習(2)
- 15 試験

【成績評価方法】

講義最終日に実施されるテストで評価します。
履修取り下げ精度を適用しません。

【予備学習の指示】

毎回、授業後の「復習」をして下さい。また、次回の範囲をしますので、「予習」をして授業に参加して下さい。講義中に重要な連絡をすることがあります。講義に欠席する場合には、そのような連絡事項について各自把握しておいて下さい。

【教科書・参考書】

教科書『簿記2級（商業簿記）テキスト・問題集・解答集』『ステップアップ問題集』『答練問題』

【履修条件・注意事項】

授業で電卓を使用しますので準備して下さい。

授業科目名	財務諸表Ⅱ (2単位)	開講時期	春学期 木曜日3時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	坂口 順也 (大学院経済学研究科)	office hour	講義後（要予約）

【講義の目的】

この授業では、会計学の基本的な考え方を紹介し、これに関わる知識を身につけることを目的とします。また、基本的な知識の習得を通じて、会計についての基礎的分析力を育成することを目指します。

【授業内容】

- 1 イントロダクション
- 2 Fundamentals (1)
- 3 Fundamentals (2)
- 4 Fundamentals (3)
- 5 Connections (1)
- 6 Connections (2)
- 7 Connections (3)
- 8 Connections (4)
- 9 Connections (5)
- 10 Cash Flow (1)
- 11 Cash Flow (2)

- 12 Analysis (1)
- 13 Analysis (2)
- 14 Truthfulness
- 15 まとめ

【成績評価方法】

講義中に実施する小テストなど（平常点）:30%-40%、（期末）試験:70%-60%で総合評価します。

履修取り下げ制度は採用しません。

【予備学習の指示】

必要に応じて指示します。

【教科書・参考書】

John Tracy, How to Read a Financial Report: Wringing Vital Signs Out of the Numbers, Wiley (the newest Edition)

【履修条件・注意事項】

授業は日本語で行います。

受講予定者は初回の授業に出席することをお勧めします。

授業科目名	経済政策 (2単位)	開講時期	春学期 木曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・ 経営学科関連専門 科目	配当年次	3・4年
担当教員名	飯島 信幸 (国際経済政策研究 センター)	office hour	講義終了後又は随 時予約

【講義の目的】

経済政策の基本概念、日本の財政の概要、金融政策の概要を学習し、その後、税の制度設計の基本的考え方を学習することで、経済に占める税の役割、税制の背景・課題等の深度ある理解を通じて我が国経済の政策課題に関する自主的探求力を育成することを目的とします。

【授業内容】

- 1 オリエンテーション・序論(経済政策の意義)
- 2 財政総論
- 3 金融政策の概要
- 4 租税政策総論
- 5 租税政策各論—所得税1
- 6 租税政策各論—所得税2
- 7 租税政策各論—法人税1
- 8 租税政策各論—法人税2
- 9 租税政策各論—消費税1
- 10 租税政策各論—消費税2
- 11 租税政策各論—相続税1
- 12 租税政策各論—相続税2
- 13 国際課税—BEPS等
- 14 地方税、税務行政(税制の執行)
- 15 予備

【成績評価方法】

講義中間段階(6月末を予定)でのレポート提出及び期末試験の成績を基本としつつ、講義への出席状況・参加姿勢等も踏まえて評価する(外部講師による特別講義の出席は必須)。履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

平素より首相官邸、財務省、日銀等のホームページをチェックする習慣をつけること。

【教科書・参考書】

教科書は特に使用しない。参考書として「図説日本の財政〈平成30年度版〉」東洋経済新報社2018年、「図説日本の税制〈平成30年度版〉」財経詳報社2018年、国税庁HP税大講本等

【履修条件・注意事項】

毎回、原則、レジュメをNUCTに事前配付するので、NUCT掲載の資料を持参すること(講師の都合でNUCTで事前配付しない場合は、講義時の資料配付、スライドの映写等により講義を行う。)

授業科目名	農業経済 (2単位)	開講時期	秋学期 木曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・ 経営学科関連専門 科目	配当年次	3・4年
担当教員名	園田 正 (大学院経済学研究 科)	office hour	月曜日 1時限

【講義の目的】

本講義はテキストにしたがい、経済発展とともに、日本の農業を取り巻く問題がどのように変化してきたか、それらに農家がどのように対応し、政府がどのような政策をとってきたかを学び、自主的探究力を育む。

【授業内容】

- 1 現代世界の農業問題
- 2 食料問題の理論①
- 3 食料問題の理論②
- 4 農業調整問題の理論①
- 5 農業調整問題の理論②
- 6 農業成長と職長問題の克服①
- 7 農業成長と職長問題の克服②
- 8 経済発展と農業問題の転換①
- 9 経済発展と農業問題の転換②
- 10 先進国段階の農業保護
- 11 価格政策の破綻
- 12 構造政策の挫折①
- 13 構造政策の挫折②
- 14 農家行動の特異性と農家モデル
- 15 日本農業の政策課題

【成績評価方法】

期末試験の成績による。履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

特になし。

【教科書・参考書】

速水佑次郎・神門善久『農業経済論』岩波書店

【履修条件・注意事項】

特になし。

授業科目名	労働経済 (2単位)	開講時限	秋学期 木曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	工藤 教孝 (大学院経済学研究 科)	office hour	講義終了後または 予約による

【講義の目的】

この講義では、労働市場に関する指標や統計を理解し、関連する理論を習得する。特に「フロー・アプローチ」という新しい分析に力を注ぐ。そのうえで、国際比較を通じて日本の労働市場の特徴を明らかにし、労働市場に関する制度や政策について論じ、自主的探求力を育成することを目的とする。

【授業内容】

- 1 ガイダンス
- 2 労働需要
- 3 労働供給
- 4 労働供給の実際
- 5 労働供給料の計測
- 6 労働市場のフロー分析
- 7 マッチングと有効求人倍率
- 8 雇用創出とジョブ・フロー
- 9 交渉と賃金
- 10 摩擦的労働市場の均衡
- 11 景気変動と労働市場
- 12 実質賃金の計測
- 13 賃金格差の実際
- 14 賃金格差の理論
- 15 労働市場の規制と制度

【成績評価方法】

授業の到達目標の達成度を期末試験によって判定し、基礎概念の理解、データの理解、ならびに理論分析の正確性という観点で成績を付けて単位を付与する。履修取り下げ制度を採用しないため、期末試験を受験しなければ「欠席」となる。

【予備学習の指示】

国内外の労働経済関連のWebサイトを適宜紹介するので、予習・復習に役立てること。データを実際にダウンロードして授業の内容を再現すること。クラスWebサイトを通じて配布する資料を読むこと。

【教科書・参考書】

教科書：『労働経済学』（宮本弘暁）新世社、2018年
参考書：『サーチ理論』（今井亮一・工藤教孝・佐々木勝・清水崇）東京大学出版会、2007年

【履修条件・注意事項】

特になし。

授業科目名	産業組織 (2単位)	開講時限	秋学期 火曜日 1時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	安達 貴教 (大学院経済学研究 科)	office hour	TBA (To Be Announced という意味)

【講義の目的】

ミクロ経済学における部分均衡のフレームワークを活用し、主に財・サービス市場を念頭に置きながら、不完全競争下における種々の企業行動及びその消費者への影響の理解に努め、併せて競争政策や公共政策の評価に繋げんとする所までも含めてが、学問分野としての「産業組織論」が狙いとする所である。その全体像を網羅的ではなく選択的に俯瞰することを目的とする。

【授業内容】

- 1 企業による価格決定のメカニズム (1) 市場支配度指数アプローチの導入
- 2 需要関数の推定 (1)
- 3 需要関数の推定 (2)
- 4 企業による価格決定のメカニズム (2) 価格差別 1
- 5 企業による価格決定のメカニズム (3) 価格差別 2
- 6 垂直的取引関係
- 7 競争政策との関連
- 8 製品差別化
- 9 企業間の共謀
- 10 参入と退出
- 11 奪略的価格設定
- 12 水平的企業合併
- 13 企業間の技術提携
- 14 ネットワーク効果 (1) 基本的設定
- 15 ネットワーク効果 (2) プラットフォーム

【成績評価方法】

主に期末試験（筆記。簡易電卓以外は持ち込み不可の予定）に依るが、詳細は、開講時に指示する。

【予備学習の指示】

学部中級レベルのミクロ経済学と計量経済学の知識を前提とする。

【教科書・参考書】

数年後に出版予定の教科書の草稿一部を、ご著者達のご厚意によりお見せいただく内容に依拠する予定だが、部分的に、花崗誠『ビジネスと産業組織の経済学』（有斐閣、2018年）も利用予定。

【履修条件・注意事項】

私は、学部4年時に受講していた授業で、後ろを振り返りながらゼミ同期と私語をしていたら、講義をしていた教員に「うるさい！」と注意され、前に向き直り、うつむいて黙っていたら今度は「返事は？」と駄目出しされたという、まさに私の大学時代を象徴する、今となっては懐かしい思い出があるのだが、果たして立場が逆になって同様の状況に遭遇した際、どのように対応をするべきか。未だ態度を決めかねている。

授業科目名	国際経済 (2単位)	開講時期	秋学期 木曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・ 経営学科関連専門 科目	配当年次	2年
担当教員名	柳瀬 明彦 (大学院経済学研究 科)	office hour	随時 (要予約)

【講義の目的】

国際経済学（国際貿易論）の基礎理論を学ぶと同時に、現実の国際経済に関する様々な話題について、それらの問題の所在がどこにあり、どのように分析すべきかを理解することを通じて、基礎的分析力を身につける。

【授業内容】

- 1 ガイダンスとイントロダクション
- 2 貿易の発生要因1：比較優位
- 3 貿易の発生要因2：規模の経済
- 4 貿易の発生要因3：国際寡占競争
- 5 貿易の発生要因についてのまとめと補足
- 6 貿易政策と所得分配：特殊要素モデル
- 7 貿易政策と所得分配：ヘクシャー＝オリーン・モデル
- 8 貿易政策はなぜ行われるのか1：交易条件動機
- 9 貿易政策はなぜ行われるのか2：利益団体
- 10 GATTとWTO
- 11 幼稚産業保護
- 12 戦略的貿易政策
- 13 多国籍企業と直接投資
- 14 労働の国際移動
- 15 まとめ

【成績評価方法】

期末試験を基本とする。履修取り下げ制度を適用しない。詳しくは1回目の講義のときに説明します。

【予備学習の指示】

ミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎知識を前提として講義を進めるので、復習しておくこと。

【教科書・参考書】

初回の講義で紹介します。

【履修条件・注意事項】

毎回の講義内容に関して予習は特に必要ありませんが、復習は必ず行うこと。

授業科目名	財政 (2単位)	開講時期	秋学期 火曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・ 経営学科関連専門 科目	配当年次	2年
担当教員名	柳原 光芳 (大学院経済学研究 科)	office hour	火曜日 16:30～18:00

【講義の目的】

日本経済を俯瞰し、政府の財政状況を理解することと、政府の財政政策、特に歳入面に焦点を当て、マクロ・ミクロ経済学の視点から、理論的に受講生が理解できるようになることです。現実の財政問題を自らの力で捉え、その解決を考えられるようになることをめざし、講

義では自主的探求力の育成が図られます。

【授業内容】

- 1 日本の経済環境
- 2 市場の役割
- 3 政府の役割
- 4 国家財政の予算制度
- 5 地方財政
- 6 租税概論
- 7 租税原則と税制度
- 8 消費課税：制度
- 9 消費課税：理論
- 10 所得税：制度
- 11 所得税：理論
- 12 法人税
- 13 公債
- 14 社会保障
- 15 復習

【成績評価方法】

成績は期末試験を基本とし、講義内容の把握の程度と、それを基にした議論の展開力を中心に評価します。

その際、講義への参加の姿勢も評価の対象として考慮します。なお、履修取り下げ制度を適用しません。

【予備学習の指示】

特になし。

【教科書・参考書】

(教科書)『財政学(仮)』森田雄一・柳原光芳編著、中央経済社、2019。

(参考書)『図説 日本の財政』各年度版、東洋経済新報社。

【履修条件・注意事項】

マクロ・ミクロ経済学の基礎的な知識があることが望まれます。

初回の講義で、上記の成績評価の方法についてより詳しく説明します。

授業科目名	金融 (2単位)	開講時期	秋学期 火曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・ 経営学科関連専門 科目	配当年次	2年
担当教員名	清水 克俊 (大学院経済学研究 科)	office hour	講義後 または火曜日 4時 限 (事前メール)

【講義の目的】

金融市場・金融機関の機能、貨幣の機能、金融政策の役割などについて基礎的知識を獲得し、現実の金融取引や金融市場の動向について簡単な理解ができるようになることを通じて基礎的分析力を育成することを目的とする。

【授業内容】

- 1 金融取引と金融機関・金融市場：概観
- 2 金融資産の評価
- 3 貯蓄と資産選択
- 4 リスク資産の価格
- 5 企業の実物投資
- 6 企業の資金調達
- 7 企業の財務戦略とガバナンス
- 8 リスク・ヘッジと金融資産
- 9 金融市場と金融機関

- 10 金融仲介機関の機能
- 11 金融制度と規制
- 12 マネーと金融政策
- 13 金融政策とインフレ率および利率
- 14 マクロ経済と金融政策
- 15 国際金融

【成績評価方法】

ミニテストおよび最終試験（またはレポート）の点数により学習到達度の観点から単位を付与する。

履修取り下げ制度を採用する。

【予備学習の指示】

教科書を事前・事後に読み、コンセプト・チェックや本章のポイントで要点をおさえ、練習問題を解くこと。また、web上の参考資料をダウンロードして読むこと。

【教科書・参考書】

教科書 金融経済学入門（清水克俊、東京大学出版会）

参考書 金融経済学（清水克俊、東京大学出版会）

【履修条件・注意事項】

特になし。

授業科目名	公共経済 (2単位)	開講時限	春学期 金曜日 1時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・ 経営学科関連専門 科目	配当年次	3・4年
担当教員名	玉井 寿樹 (大学院経済学研究 科)	office hour	春学期 金曜日 2時限

【講義の目的】

公共経済学の主要なテーマ（公共財の供給、外部性、所得再分配など）を解説し、市場の失敗など諸問題の解決のために公共部門が果たすべき役割について、自主的に探究できる力を育成することを目的とする。

【授業内容】

- 1 ガイダンス：公共部門の役割
- 2 市場のメカニズム(1)
- 3 市場のメカニズム(2)
- 4 公共財(1)：公共財の定義・最適供給ルール
- 5 公共財(2)：最適な公共財供給の実現
- 6 外部効果
- 7 自然独占
- 8 前半のまとめ
- 9 価格規制
- 10 所得再分配
- 11 租税
- 12 年金
- 13 経済の安定化
- 14 財政の維持可能性
- 15 後半のまとめ

【成績評価方法】

授業中課題（2回・20%）定期試験（80%）

履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

NUCTを通じて講義資料を配布するので、事前に資料を準備・学修しておくことが望ましい。

【教科書・参考書】

教科書：小川光・西森晃 著『公共経済学』中央経済社（2015年）

参考書：奥野信宏・八木匡・小川光 編『公共経済学で日本を考える』中央経済社（2017年）

【履修条件・注意事項】

特になし。

授業科目名	現代資本主義 (2単位)	開講時限	春学期 木曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・ 経営学科関連専門 科目	配当年次	3・4年
担当教員名	鍋島 直樹 (大学院経済学研究 科)	office hour	月曜日 16:30~17:30

【講義の目的】

この講義では、ケインズとカレツキの経済学の拡張・発展をはかるポスト・ケインズ派の視角にもとづき、現代資本主義の構造と動態について考察する。20世紀以降、資本主義はどのような変貌を遂げ、経済学はそれにどう対応してきたのかの検討を通じて、現代資本主義の特質を自主的に探求するための能力を養う。

【授業内容】

- 1 現代資本主義をどう見るか
- 2 ケインズの経済学(1)——ケインズ革命の背景
- 3 ケインズの経済学(2)——『一般理論』
- 4 ケインズの経済学(3)——『一般理論』
- 5 ケインズの経済学(4)——ケインズの社会哲学と経済政策
- 6 カレツキの経済学(1)——「有効需要の理論」の独立の発見
- 7 カレツキの経済学(2)——価格と分配の独占度理論
- 8 カレツキの経済学(3)——利潤と国民所得の決定
- 9 カレツキの経済学(4)——投資と景気循環
- 10 カレツキの経済学(5)——完全雇用の政治経済学
- 11 ポスト・ケインズ派の経済学(1)——理論と方法の特徴
- 12 ポスト・ケインズ派の経済学(2)——経済成長と所得分配
- 13 ポスト・ケインズ派の経済学(3)——貨幣的生産経済の論理
- 14 ポスト・ケインズ派の経済学(4)——金融不安定性仮説
- 15 ポスト・ケインズ派の経済学(5)——意義と課題

【成績評価方法】

学期中のレポート課題、および期末試験により評価する。履修取り下げ制度を採用しないので、期末試験を受験しない者は「欠席」となる。

【予備学習の指示】

特になし。

【教科書・参考書】

宇仁宏幸・坂口明義・遠山弘徳・鍋島直樹『入門社会経済学——資本主義を理解する（第2版）』ナカニシヤ出版、を参考書として使用する。

【履修条件・注意事項】

政治経済学Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。

授業科目名	経済学史 (2単位)	開講時期	秋学期 火曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・ 経営学科関連専門 科目	配当年次	2年生
担当教員名	長尾 伸一 (大学院経済学研究 科)	office hour	火曜 14:30~15:00

【講義の目的】

古代から現代にいたる経済学の歴史を、科学と人文学の大きな文脈の中に位置づけて、経済学の学問的性格を「科学としての経済学」および「モラル・サイエンスとしての経済学」の二つの視点から明らかにする。それによって経済学および社会科学を学ぶための基礎的な視点を身に着けるとともに、複数の系譜がある経済理論の全体と、それぞれの問題意識を把握したうえで、自主的に判断して研究を進めるための準備を行う。

【授業内容】

- 1 経済学の始まりと現代までの系譜
- 2 「経済」の2つの意味
- 3 アリストテレス『政治学』における社会的動物としての人間
- 4 アリストテレス倫理学での「分配的正義」と「交換的正義」
- 5 商業と国家
- 6 啓蒙と経済学の起源
- 7 経済学の二つのパラダイムと「新しい科学」
- 8 古典的パラダイムと医学：ペティとカンティロン
- 9 古典的パラダイムと医学：ケネー
- 10 近代的パラダイムとニュートン物理学
- 11 モラル・サイエンスとしての経済学：アダム・スミス
- 12 古典派経済学：リカード
- 13 社会主義の経済学：マルクス
- 14 第三の経済学と進化論：
- 15 経済学の彼方

【成績評価方法】

期末試験

【予備学習の指示】

とくになし。

【教科書・参考書】

教科書：長尾・梅澤・平野、松嶋編『現代経済学史の射程—パラダイムとウェルビーイング—』、ミネルヴァ書房、2019年

【履修条件・注意事項】

とくになし。

授業科目名	社会思想史 (2単位)	開講時期	秋学期 月曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・ 経営学科関連専門 科目	配当年次	3・4年
担当教員名	隠岐 さや香 (大学院経済学研究 科)	office hour	木曜日 4限

【講義の目的】

社会思想の重要な著者とその思想について、その思想が生まれた社会的な背景も踏まえつつ紹介する。社会科学的思考の発展の経緯を踏まえ、「社会」そのものを構想する社会思想がいかにして生まれた

のか、それが近代化にとっていかなる意味を持ったのかを考察する。本講義を一通り受講することで、「社会」とは何であるのかを理解し、社会問題について自主的に思考・考察する力が育成されることを目指す。

【授業内容】

- 1 イントロダクション：「社会」が誕生するまで
- 2 前近代における人間・国家・宇宙：アリストテレスとプラトン
- 3 マキャヴェリと近代の人間
- 4 宗教改革と労働・資本主義
- 5 ホッブズとロックの古典的「社会契約」説
- 6 モンテスキューとルソー：文明社会と人民主権論
- 7 ケネーとスミス：(政治)経済学の確立と農業・商業
- 8 二重革命の時代とサン＝シモン、オーギュスト・コント
- 9 英国の思想状況と哲学的急進主義：ベンサムとミル父子
- 10 社会主義とフェミニズム思想
- 11 ドイツの思想状況と社会主義・共産主義
- 12 日本の近代化と社会思想
- 13 「全体主義」批判の思想：ケインズとハイエク
- 14 「新自由主義」の時代とポストモダン
- 15 総合討論

【成績評価方法】

平常点30%、期末試験70%の割合で評価する。平常点には授業参加と二、三回ほどのコメントペーパー提出などが含まれる。履修取り下げ制度は適用しない。

【予備学習の指示】

毎回、次回のために必要な予備学習を指示する予定である。

【教科書・参考書】

教材は授業時にプリントの形で配付する。参考書は初回授業の時に指定する。

【履修条件・注意事項】

授業科目名	日本経済史 (2単位)	開講時期	春学期 火曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・ 経営学科関連専門 科目	配当年次	3・4年
担当教員名	小堀 聡 (大学院経済学研究 科)	office hour	春学期 火曜日15時~16時

【講義の目的】

現代日本経済のさまざまな特徴がどのようにしてつくられてきたのかを歴史的に学ぶ。非欧米諸国のなかでいち早く工業化と経済成長とを成し遂げ、それと同時に帝国主義国にもなった日本の経験について理解を深めることを通じて、現代社会を長期的視点から自主的に探究する能力を育成することが目的である。

【授業内容】

- 1 ガイダンス
- 2 公領と荘園の古代(1) 古代国家の社会・経済
- 3 公領と荘園の古代(2) 荘園公領制
- 4 貿易と戦乱の中世
- 5 江戸時代の経済(1) 開墾と人口増大の17世紀
- 6 江戸時代の経済(2) 踊り場の18世紀
- 7 成長の19世紀 開港から明治維新へ
- 8 苦闘の20世紀初頭~1920年代(1) 産業革命と帝国主義
- 9 苦闘の20世紀初頭~1920年代(2) 第1次世界大戦とその影響
- 10 転換の1930年代~60年代(1) 昭和恐慌から戦時経済へ

- 11 転換の1930年代～60年代（2） 「大東亜共栄圏」の形成と崩壊
- 12 転換の1930年代～60年代（3） 占領、復興、特需
- 13 転換の1930年代～60年代（4） 高度経済成長と「日本の経営」
- 14 国際化の1970年代以降 成長から停滞へ
- 15 まとめ

【成績評価方法】

中間レポート（1,200字程度：25%）＋ 期末レポート（6,000字程度：75%）

※履修取り下げ制度は採用しない。期末レポート未提出の場合は「欠席」とする。

レポート課題はいずれも講義内容に関連する書評です。

【予備学習の指示】

参考書を事前に読んでおくことが望ましい。なお、参考書はあくまで予習用のため、講義中に一々参照することはしません。購入するか否かは各人の自由とします。

【教科書・参考書】

参考書 中西聡編『日本経済の歴史—列島経済史入門』名古屋大学出版会、2013年、2,800円＋税

参考書 三和良一『概説日本経済史—近現代』第3版、東京大学出版会、2012年、2,500円＋税

【履修条件・注意事項】

講義レジュメはNUCTを通じて事前に配布する。各自ダウンロードした上で出席すること。

授業科目名	西洋経済史 (2単位)	開講時限	秋学期 金曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・ 経営学科関連専門 科目	配当年次	3・4年
担当教員名	伊藤 カンナ (大学院経済学研究 科)	office hour	金曜12:00～13:00 (メールで予約し てください)

【講義の目的】

この講義では、今日私たちが慣れ親しんでいる資本主義経済システムの発展と、世界市場が形成されていく過程を学ぶ。大航海時代以降のヨーロッパの国民国家形成と諸国がとった経済政策を検証し、さらに18世紀半ば以降のイギリスにおける工業化の展開と、それが人々の生活や世界経済に与えた影響を検討する。

【授業内容】

- 1 西洋経済史の視座
- 2 宗教改革
- 3 国民国家の形成
- 4 大航海時代とスペインの盛衰
- 5 オランダの経済発展
- 6 イングランドの経済発展
- 7 資本主義世界経済システム
- 8 英国の工業化（1）前提条件
- 9 英国の工業化（2）農業革命
- 10 英国の工業化（3）プロト工業化
- 11 英国の工業化（4）技術革新と工場制
- 12 工業化と社会問題
- 13 世界に広がる工業化
- 14 パックス・ブリタニカ
- 15 まとめ

【成績評価方法】

主として試験・レポートにより学習到達度を点検しその成績により評価を行う。宿題や講義時のディスカッションへの積極的な参加も加味して評価する。なお、履修取り下げ制度は採用しない。

【予備学習の指示】

①「一般経済史」のアウトラインを復習しておくこと。②講義の中で指示した予習課題や宿題等に取り組むこと。③毎日、時事ニュースをチェックすること。これらを前提として授業を進める。

【教科書・参考書】

馬場哲 / 山本通 / 廣田功 / 須藤功『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房、2012年。適宜、参考書を紹介する。

【履修条件・注意事項】

高校レベルの世界史の知識があることが望ましい。必要に応じて高校時代の教科書、資料集、また市販されているそれに準じる書籍で学習すること。

授業科目名	ファイナンス (2単位)	開講時限	春学期 月曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	高橋 秀徳 (大学院経済学研究 科)	office hour	講義後又はメール

【講義の目的】

本講義は、証券市場における伝統的なファイナンス理論（ポートフォリオ理論、資本資産価格モデル）と行動ファイナンスの解説・課題演習を通じて自主的探求力の育成することを目的とする。

【授業内容】

- 1 Introduction
- 2 Risk Aversion and Capital Allocation
- 3 Optimal Portfolio Selection 1
- 4 Optimal Portfolio Selection 2
- 5 Risk and Return in Equilibrium: The CAPM
- 6 Market Efficiency
- 7 Anomalies
- 8 Behavioral Finance
- 9 Valuation
- 10 Valuing Stocks
- 11 Capital Structure in a Perfect Market
- 12 Optimal Capital Structure
- 13 Payout Policy
- 14 Frontiers of Finance
- 15 Summary

【成績評価方法】

レポート30%、期末試験70%で評価する。履修取り下げ制度を採用する。学期途中で履修の意思がなくなった場合、履修取り下げ届を提出する必要がある。第6回までに「履修取り下げ届」の提出がない場合は、期末試験の欠席・レポートの未提出の場合でも、期末試験（レポートを含む）の不合格の場合と同じく、成績判定は「F」となります。

【予備学習の指示】

初級レベルの確率、統計、計量経済学の知識を習得していることが望ましい。エクセルを使ったレポート課題を出します。

【教科書・参考書】

参考書として、Berk, Jonathan, and? Peter DeMarzo, *Corporate Finance*, 4th edition, Pearson, 2016.

小林孝雄・芹田敏夫（2009）『新・証券投資論I』日本経済新聞出版社。その他、講義内で適宜紹介する。

【履修条件・注意事項】

本講義の履修を考えている学生は初回（1. Introduction）に出席して下さい。

授業科目名	経営労務 (2単位)	開講時限	秋学期 水曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門 科目・経営学科専 門科目	配当年次	2年
担当教員名	江夏 幾多郎	office hour	メールにて相談

【講義の目的】

企業経営は、労働者を従業員として雇用し、労働力を引き出すことで成立する。また、多くの人々にとって、人生を営み自らを成長させる最大の手段が企業での労働である。企業と人々のマッチングを図る人事管理は、近年変化の最中にある。この講義では、人事管理の目的・成り立ち・課題について検討し、受講生が自らの生き方、働き方について自主的に探究する力を育めるようになることを目指す。

【授業内容】

- 1 ガイダンス：人事管理とは
- 2 組織を作る
- 3 組織で働く
- 4 システムとしての人事管理
- 5 関係を結ぶ
- 6 報いる
- 7 仕事を割り振る
- 8 育つ、育てる
- 9 尊重する
- 10 雇用形態の多様化
- 11 女性活躍推進
- 12 ワーク・ライフ・バランス
- 13 高齢者雇用
- 14 グローバル経営と人事管理
- 15 予備日

【成績評価方法】

中間レポート（50％）期末試験（50％）、および若干の出席点。なお、(1) 中間レポート未提出者には期末試験の受験資格を与えない、(2) 中間レポートが未提出で期末試験を受験しないものは「欠席」とする。

【予備学習の指示】

教科書等を利用しながら、必要に応じて適宜行うこと。

【教科書・参考書】

教科書として平野光俊・江夏幾多郎『人事管理一人と企業、ともに生きるために』有斐閣（2018）。講義では、この本の内容を基本としつつ、付加的な情報提供も行う。

【履修条件・注意事項】

特になし。

授業科目名	生産管理 (2単位)	開講時限	春学期 月曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門 科目・経営学科専 門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	山田 基成 (大学院経済学研究 科)	office hour	火曜日 13:00~14:00

【講義の目的】

生産管理の基礎理論を学ぶと同時に、日本のモノづくり企業の動向と今後のあるべき姿について考えることを通じて、自主的探求力を育成することを目指します。

【授業内容】

- 1 イントロダクション
- 2 生産活動とオペレーションズ・マネジメント
- 3 製品とサービスの生産
- 4 製品とサービスのデザイン
- 5 品質管理（1）
- 6 品質管理（2）
- 7 在庫管理（1）
- 8 在庫管理（2）
- 9 ジャスト・イン・タイム生産方式
- 10 生産数量計画
- 11 資材所要量計画
- 12 技術イノベーションと製品ライフサイクル
- 13 製品のアーキテクチャとモジュール化
- 14 スキルと競争優位性
- 15 日本のモノづくりの課題と行方

【成績評価方法】

履修取り下げ制度を採用しない。
成績評価は試験とレポートに基づいて、総合的に判断する。

【予備学習の指示】

特になし。

【教科書・参考書】

教科書は指定しないが、講義内容のレジュメを配布し、併せて関連する文献の紹介を行う。

【履修条件・注意事項】

経営学の基礎知識があることが望ましい。

授業科目名	マーケティング (2単位)	開講時限	秋学期 水曜日 1時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門 科目・経営学科専 門科目	配当年次	2年生
担当教員名	山口 景子 (大学院経済学研究 科)	office hour	講義後 (要事前予約)

【講義の目的】

マーケティングとはなにか。それは、企業が自社の製品やサービスを売り込まなくても、消費者が自ら製品・サービスのブランド名を好意的に記憶し、その特徴を理解し、喜んで継続的に財布を開いてくれる状態をつくるための考え方と、そこから生み出される手段です。本講義では、マーケティングの考え方と基礎事例を学びながら、マーケティング課題を解決するための自主的探求力を育成することを目的と

します。

【授業内容】

- 1 イントロダクション：マーケティングとは
- 2 事業機会と事業領域の選択
- 3 標的市場の選択
- 4 市場データ分析
- 5 消費者行動分析
- 6 競争分析
- 7 競争対応
- 8 製品対応
- 9 価格対応
- 10 コミュニケーション対応
- 11 流通分析と流通チャネル対応
- 12 サービス・マーケティング
- 13 ソーシャル・マーケティング
- 14 関係性マーケティング
- 15 まとめ

【成績評価方法】

授業内で実施する小レポート50%および期末試験50%の割合で評価する。

履修取り下げ制度は採用しない。

【予備学習の指示】

身の回りのマーケティング事例に興味・関心をもつこと。

【教科書・参考書】

教科書：和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦. 2016.『マーケティング戦略 第5版』有斐閣.

参考書：コトラー & ケラー. 2014.『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント基本編 第3版』丸善出版.

【履修条件・注意事項】

講義資料をNUCTにて事前配布する（原則）。各自ダウンロードした上で講義に参加すること。

授業科目名	経営組織 (2単位)	開講時限	春学期 金曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門 科目・経営学科専 門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	犬塚 篤 (大学院経済学研究 科)	office hour	質問は講義中にす ること(毎回、質 問のタイミングを 用意する)

【講義の目的】

本講義では、経営学の基本である環境適応について正しく理解することで、組織の中で自ら課題を発見し、解決ができる力(自主的探求力)を育成する。前半では、外部環境と組織目標の関わりを中心に講義する。後半では、そうした組織目標の実現に必要なとされる内部環境適応のための諸理論について詳説する。

【授業内容】

- 1 経営組織(序論)：「環境適応」とは何か
- 2 外部環境適応(1)：線を引き
- 3 外部環境適応(2)：四方を見よ
- 4 外部環境適応(3)：三つで考えよ
- 5 外部環境適応(4)：二つの対立軸
- 6 外部環境適応(5)：一步を踏み出せ
- 7 中間討議(ケーススタディA)
- 8 中間討議(ケーススタディB)
- 9 内部環境適応(1)：条件適合理論

- 10 内部環境適応(2)：組織設計の原則
- 11 内部環境適応(3)：インセンティブ体系
- 12 内部環境適応(4)：モチベーション理論
- 13 内部環境適応(5)：リーダーシップ論とその限界
- 14 経営理論ではなく、経営学的思考法を身に付けるということ
- 15 総括

【成績評価方法】

試験(持込み不可, 70点), 中間レポート(30点) 土授業参加度(欠席・遅刻, 発言点)

【予備学習の指示】

なし。

【教科書・参考書】

教科書：なし。講義ノート等を, NuCT (<https://ct.nagoya-u.ac.jp/portal/>) より配布する。

参考書①：M.E. ポーター(著), 土岐・服部・中辻(翻訳)『新訂競争の戦略』ダイヤモンド社, 1995.

②：野中郁次郎『経営管理』日本経済新聞社, 1983.

【履修条件・注意事項】

原則として、毎回出席できることを履修要件とする(欠席や遅刻を評定に含む。不正行為は処分する)。

履修取り下げ制度を適用しない。中間レポート未提出および試験未受験者は、「欠席」とする。

過去の受講生のコメントや講義動画をHP内に公開しているので、履修を判断する際の参考にされたい。

(コメント：<http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~inu/classes.html>、

動画：同ページ内の初回ダイジェスト)

授業科目名	経営戦略 (2単位)	開講時限	秋学期 月曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門 科目・経営学科専 門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	宮崎 正也 (大学院経済学研究 科)	office hour	月曜 1時限 (事前予約を求める)

【講義の目的】

この講義では、テキストに沿って経営戦略論の基礎概念を学習することで企業経営に関する基礎的分析力を身につけるとともに、経営現象に関する様々な具体的事例を紹介することで学生の興味の幅を広げて自主的探求力を向上させることを目的とします。

【授業内容】

- 1 事業戦略の考え方
- 2 他社との「違い」をつくる
- 3 コストを引き下げる
- 4 専門性を身につける
- 5 顧客ニーズの違いに対応する
- 6 顧客の「片付けるべき用事」を手伝う
- 7 製品寿命を管理する
- 8 業界標準を活用する
- 9 「出会い」の場を提供する
- 10 新製品を創り出す
- 11 業務範囲を仕分ける
- 12 知的財産を活用する
- 13 競争優位が持続する理由
- 14 事業環境の分析・選択・操作
- 15 まとめと質疑応答

【成績評価方法】

「課題レポート」を4割、そして「期末試験」を6割の割合で総合したものを学生の評点とする。

履修取り下げ制度を採用しないため、期末試験未受験者は「欠席」評価とする。

【予備学習の指示】

受講者は、NUCT(名大ポータル)時間割表に設置のリンク先から、講義スライド・ファイルを入手できる。

【教科書・参考書】

教科書：『コア・テキスト事業戦略』 新世社、宮崎正也 著

参考書：『経営戦略入門』 日本経済新聞出版社、網倉久永・新宅純二郎 著

【履修条件・注意事項】

「課題レポート」未提出の場合は、期末試験の受験資格を失うので気をつけてください。

授業科目名	財務会計 (2単位)	開講時限	秋学期 金曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門 科目・経営学科専 門科目	配当年次	2年
担当教員名	野口 晃弘 (大学院経済学研究 科)	office hour	月曜日 13:30~14:30 要アポイントメント

【講義の目的】

この講義では、国際財務報告基準に基づく標準的な中級会計学の学習を通じて、自主的探求力の育成を目的とします。

【授業内容】

- 1 Introduction
- 2 Accounting Information System
- 3 Inventories
- 4 Property Plant and Equipment
- 5 Depreciation and Impairments
- 6 Intangibles
- 7 Provisions and Contingencies
- 8 Non-Current Liabilities
- 9 Equity
- 10 Dilutive Securities
- 11 Revenue Recognition
- 12 Income Taxes
- 13 Pensions and Postretirement Benefits
- 14 Leases
- 15 Summary

【成績評価方法】

出席(30%)宿題(50%)小テスト(20%)で評価します。履修取り下げ制度を採用しません。宿題を提出しない場合、あるいは小テストを受験しない場合は、「欠席」と評価します。

【予備学習の指示】

教科書を読んだ上で、講義に出席して下さい。

教科書：Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield, *Intermediate Accounting*, IFRS Edition Third edition, Wiley, 2018.

参考書：桜井久勝著『財務会計講義』(中央経済社)

桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門』(有斐閣アルマ)

伊藤邦雄著『新・現代会計入門』(日本経済新聞出版社)

【履修条件・注意事項】

講義は主として日本語で行われます。ただし、英語で記述された教科書を用い、宿題や小テストも英語で出題します。会計Ⅰ・会計Ⅱレベルの知識は履修に不可欠です。シラバスの変更については、講義中にアナウンスします。

授業科目名	管理会計 (2単位)	開講時限	秋学期 金曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門 科目・経営学科専 門科目	配当年次	2年
担当教員名	小沢 浩 (大学院経済学研究 科)	office hour	金曜日 13:30~14:30

【講義の目的】

経営戦略も生産システムも考える時に数値(会計情報)を必要とします。また、考えたり、設計したりするだけではなく、実績を評価し、修正することも必要です。こうした場面で会計情報を提供するのが管理会計です。この授業では、管理会計の二つの基本機能(1)意思決定のための経済性計算の方法と、(2)会計的な業績評価法について学習します。これらの学習を通じて、経営学をより深く学ぶための基礎的な能力を育成します。

【授業内容】

- 1 イントロダクション
- 2 原価の概念・分類とさまざまな損益計算書
- 3 製品原価計算：個別原価計算とABC
- 4 短期利益計画：CVP分析(基礎)
- 5 短期利益計画：CVP分析(応用)
- 6 経済性の意思決定：関連原価計算(基礎)
- 7 経済性の意思決定：関連原価計算(応用)
- 8 プロダクト・ミックス
- 9 長期的意思決定：ライフサイクル原価計算・資金の時間価値
- 10 標準原価管理：標準の設定
- 11 総合予算の作成
- 12 変動予算による業績の評価：差異の分析(直接費)
- 13 変動予算による業績の評価：差異の分析(間接費)
- 14 変動予算による業績の評価：差異の分析(差異の解釈)
- 15 総括

【成績評価方法】

履修取り下げ制度を採用しません。期末試験を受験しない場合「欠席」とします。

【予備学習の指示】

適宜、指示します。

【教科書・参考書】

講義資料はNUCTで配賦します。

参考書 小沢 浩『詳解コストマネジメント』同文館出版。

【履修条件・注意事項】

授業で電卓を使用しますので、準備して下さい。

授業科目名	監査 (2単位)	開講時限	春学期 火曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門 科目・経営学科専 門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	仙場 胡丹 (大学院経済学研究 科)	office hour	講義後、要アポイ ントメント

【講義の目的】

企業をとりまく株主、債権者等の利害関係者の意思決定に際して、経営者が提供する情報が偏りのない公正なものか否かは極めて重要な問題である。本講義では、経営者が利害関係者に対して提供する財務情報の信頼性の保証手段である監査の基礎について、講義し受講者に学習させ、監査に関わる基礎的分析力を育成することを目的とする。さらに、これらの知識を用いて、問題演習や試験を通じて、自主的探究力を育成することも期待できる。なお、基本的には講義形式をとっているが、重要な概念への理解を促進するためには、簡単な問題演習を行う予定である。

【授業内容】

- | | | |
|----|---------|-----------------------|
| 1 | 監査の定義 | イントロー「監査」とは？ |
| 2 | | 監査の必要性 |
| 3 | 監査結果の開示 | 監査報告書からみた監査の意義と限界の理解と |
| 4 | | 監査の発展 |
| 5 | 法定監査 | 金融商品取引法監査と会社法監査 |
| 6 | | 会社法とコーポレート・ガバナンス |
| 7 | | リスク・アプローチ（1） |
| 8 | | リスク・アプローチ（2） |
| 9 | リスク・ | 監査基準とリスク・アプローチ |
| 10 | アプローチ& | リスク・アプローチと監査実施基準 |
| 11 | 監査実施 | リスク評価と監査手続 |
| 12 | プロセス | 内部統制（1） |
| 13 | | 内部統制（2） |
| 14 | | 監査の実施と監査意見表明等 |
| 15 | 予備 | 予備 |

【成績評価方法】

平常点（出席状況や講義中における問題演習の完成状況：30%-40%）に試験の結果（60%-70%）を加えた総合点で評価する。なお、経済学部では、履修取り下げ制度を適用しなく、本講義では試験を受講しない者は、「欠席」とする。

【予備学習の指示】

必要に応じて、その都度、指示する。

【教科書・参考書】

伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏『ベーシック監査論』（最新版）同文館出版。参考書は必要に応じて、指示する。

【履修条件・注意事項】

1. 講義は、簿記を含む会計学の基礎知識があることを前提に進める。2. 授業内容について実施状況に応じて変更することがある。3. よければ、事前に<http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~kotan/index.html>まで講義を進める上で利用するレジュメを各自プリントアウトして利用すること。

授業科目名	経営分析 (2単位)	開講時限	春学期 水曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門 科目・経営学科専 門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	角ヶ谷 典幸 (大学院経済学研究 科)	office hour	火曜日 12:00~13:00 (要予約)

【講義の目的】

経営分析の手法を通して、財務諸表の読み方を習得し、企業業績を評価する能力を育成する。また、学生が自ら実際に公表されている財務報告書を手し分析する自主的探求力を育成することを目指す。

【授業内容】

- ガイダンス
- 貸借対照表・損益計算書の作成・理解
- キャッシュ・フロー計算書の作成
- キャッシュ・フロー計算書の理解
- 連結財務諸表の作成
- 連結財務諸表の理解
- 連結財務諸表の分析
- 中間まとめ
- 収益性の分析
- 生産性の分析
- 安全性の分析
- 成長性の分析
- リスクの分析
- 経営分析事例
- 総まとめ

【成績評価方法】

期末試験によって学習到達度を評価する。なお、講義への貢献があれば、それも加味する。
履修取り下げ制度を適用しない。

【予備学習の指示】

予習および復習が必要である。具体的な予復習の内容は講義中に指示する。

【教科書・参考書】

必要な資料はNUCTに掲載する予定である。

【履修条件・注意事項】

授業科目名	国際会計 (2単位)	開講時限	春学期 金曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門 科目・経営学科専 門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	仙場 胡丹 (大学院経済学研究 科)	office hour	講義後、要アポイ ントメント

【講義の目的】

現在、日本を含めて世界の130を超える国・地域において、国際会計基準（IFRS）にしたがって連結財務諸表の作成が容認または強制されている。日本では、2018年度において、IFRSを任意適用している企業は任意適用を決定している企業を含めて200社以上に上っている。本講義では、IFRS形成の歩み、背景を踏まえて、特に条文の中身の詳細や日本基準との相違に着目した学習を通じて、会計処理に関

わる基礎的分析力を育成することを目的とする。さらに、これらの知識を用いて、問題演習や試験を通じて、自主的探究力を育成することも期待できる。なお、基本的には講義形式をとっているが、重要な概念への理解を促進するためには、簡単な問題演習を行うことがある。

【授業内容】

1	イントロ～会計基準の国際的統合、国際会計基準制度の制定の	の制定と適用
2	基礎概念	概念フレームワーク、
3	財務諸表の表示 (IAS1)、キャッシュ・フロー計算書 (IAS7)	
4	棚卸資産 (IAS1)、	
5	有形固定資産 (IAS16)、	
6	資産	無形資産 (IAS38)、
7		資産の減損 (IAS36)
8		リース (IFRS16)、
9		投資不動産 (IAS40)、
10		金融商品 (IFRS9)
11	負債	引当金、偶発負債および偶発資産 (IAS37)
12		従業員給付 (IAS19)
13	収益	顧客との契約から生じる収益 (IFRS15)
14	その他	その他：会計方針、会計上の見積りの変更および誤謬 (IAS8)
15		試験

【成績評価方法】

講義最終日に実施される試験によって評価する。履修取り下げ制度を適用しなく、本講義では試験を受講しない者は、「欠席」とする。

【予備学習の指示】

予習および復習が必要である。具体的な内容は講義中に指示する。

【教科書・参考書】

教科書：『テキスト 国際会計基準〔新訂版〕』桜井久勝編著、白桃書房、2018年。

【履修条件・注意事項】

1. 講義は、簿記を含む会計学の基礎知識があることを前提に進める。2. 授業内容について実施状況に応じて変更することがある。3. 教科書の内容を利用し講義する。練習問題も教科書から出題する予定である。4. 講義を進める上で <http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~kotan/index.html> を利用することがある。

授業科目名	経営情報 (2単位)	開講時限	秋学期 木曜日 1時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門 科目・経営学科専 門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	樋野 励 (大学院経済学研究 科)	office hour	随時

【講義の目的】

身のまわりにある離散的な事象として扱うことができるサービスを取り上げ、そのモデル化と基礎的な解法を学ぶ。

【授業内容】

- 1 イントロダクション
- 2 自然対数の底 (連続複利と対数関数の微分)
- 3 統計の基礎 (確率密度関数、期待値、分散)
- 4 ベルヌーイ試行と二項分布
- 5 ポアソン分布
- 6 指数分布

- 7 待ち行列の基礎 (表記方法、リトルの公式)
- 8 窓口が一つの待ち行列モデル (ポアソン到着、指数サービス、単一窓口: $M/M/1$)
- 9 窓口が一つの待ち行列モデル (例題)
- 10 窓口が複数の待ち行列モデル (ポアソン到着、指数サービス、複数窓口: $M/M/s$)
- 11 窓口が一つの待ち行列モデル (例題)
- 12 その他の待ち行列モデル 1 (ポアソン到着、一般のサービス、単一窓口: $M/G/1$)
- 13 その他の待ち行列モデル 2 (ポアソン到着、一般のサービス、複数窓口: $M/G/s$)
- 14 その他の待ち行列モデル 3 (ポアソン到着、次数のアーランサービス、複数窓口: $M/Ek/s$)
- 15 まとめ

【成績評価方法】

期末試験により評価を行う。この講義では履修取り下げ制度は採用しない。

【予備学習の指示】

【教科書・参考書】

教材用プリントを配布し、授業の進捗に応じて参考書を紹介する。

【履修条件・注意事項】

授業科目名	経済政策特論 (2単位)	開講時限	秋学期 火曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	萬行 英二 (大学院経済学研究 科附属国際経済政 策研究センター)	office hour	By appointment

【講義の目的】

This course provides economic explanations on issues particularly important for developing countries, hopefully giving rise to students' interests in development economics. (本コースは、特に開発途上国にとって重要な問題について経済学的な説明を提供することを目的とする：自主的探究心の育成を目標とする講義。)

【授業内容】

- 1 Human capital issues 1: Health and development (人的資本 1: 健康と開発)
- 2 Human capital issue 2: Return to health (Econometric identification problems 1)
(人的資本 2: 健康への投資: 実証研究で問題となるポイント 1)
- 3 Human capital issue 3: Return to education (Econometric identification problems 2)
(人的資本 3: 教育への投資: 実証研究で問題となるポイント 2)
- 4 Human capital issue 4: Return to education (Econometric identification problems 3)
(人的資本 4: 教育への投資: 実証研究で問題となるポイント 3)
- 5 Intra-household economics (家計内資源配分)
- 6 Labor issues - Migration (労働に係る問題 - 労働移転)
- 7 Land issues - Tenancy (土地に係る問題 - 借地)
- 8 Credit issues - Rural financial institutions
(信用供与に係る問題 - 農村地における金融制度・組織・慣行)
- 9 Credit issues - Microfinance (信用供与に係る問題 - マイクロ・ファイナンス)
- 10 Risk coping and consumption smoothing (リスク対処と消費平準化)
- 11 Insurance tests (保険テスト)

- 12 Economic growth 1 (経済成長1)
- 13 Economic growth 2 (経済成長2)
- 14 New growth theories (新経済成長理論)
- 15 Complementarities in development (開発における補完)

【成績評価方法】

Final Exam (100%) is used to measure the level of understanding on the concepts covered in the course. If you do not take the final exam, your final grade is "Absent." (学習到達度を測る目的で、期末試験：比重100%を行う。履修取り下げ制度を採用しない。)

【予備学習の指示】

Basic microeconomics, Basic statistics, Introductory econometrics.

【教科書・参考書】

Debraj, Ray. Development Economics. 1998. Princeton University Press.

講義で議論する文献は講義初日に配布するシラバスにリストされている。

【履修条件・注意事項】

This course will be taught in English.

授業科目名	農業経済特論 (2単位)	開講時限	春学期 月曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	園田 正 (大学院経済学研究科)	office hour	月曜日 1時限

【講義の目的】

本講義はテキストにしたがって、発展途上国の農家のマイクロ経済行動の理論・実証分析の方法について学び、自主的探究力を育む。

【授業内容】

- 1 イントロダクション
- 2 需要分析①
- 3 需要分析②
- 4 需要分析③
- 5 生産物供給と要素需要①
- 6 生産物供給と要素需要②
- 7 供給反応 (期待形成と部分調整) ①
- 8 供給反応 (期待形成と部分調整) ②
- 9 リスクと農家行動①
- 10 リスクと農家行動②
- 11 リスクと農家行動③
- 12 農家モデル①
- 13 農家モデル②
- 14 農家モデル③
- 15 総復習

【成績評価方法】

試験の成績による。

【予備学習の指示】

特になし。

【教科書・参考書】

Elisabeth Sadoulet and Alan de Janvry (1995) *Quantitative Development Policy Analysis*, Johns Hopkins University Press.

【履修条件・注意事項】

学部レベルのマイクロ経済学と計量経済学を履修済みであることが望ましい。

授業科目名	労働経済特論 (2単位)	開講時限	春学期 金曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	工藤 教孝 (大学院経済学研究科)	office hour	講義終了後または予約

【講義の目的】

この講義では、マクロ労働市場分析に関する最先端理論を学ぶ。サーチ理論を通じた労働市場のモデル化に加え、コンピュータを用いたシミュレーションについて学び、自主的探究力を育成することを目的とする。

【授業内容】

- 1 Review of Dynamic Optimization
- 2 Job Search and Optimal Stopping
- 3 Basic DMP Model
- 4 Bargaining Theory
- 5 Extensions
- 6 Large Firms
- 7 Business Cycle Facts
- 8 Business Cycle Facts
- 9 Unemployment Volatility Puzzle
- 10 Unemployment Volatility Puzzle
- 11 Hours of Work over the Business Cycle
- 12 Hours of Work over the Business Cycle
- 13 Labor Market Participation
- 14 DSGE with Search Frictions
- 15 DSGE with Search Frictions

【成績評価方法】

There will be assignments, in which students are asked to replicate (empirical and theoretical) results in some leading research papers.

【予備学習の指示】

Students need to install some (free) computational packages such as Octave, dynare, RStudio (or R), and Maxima in your computer. Windows computers are preferred.

【教科書・参考書】

Christopher A. Pissarides, *Equilibrium Unemployment Theory*, 2nd edition, MIT press, 2000.

For more information, visit <https://sites.google.com/site/gradlabora/>.

【履修条件・注意事項】

講義は英語で行います (All lectures will be given in English)。

授業科目名	産業組織特論 (2単位)	開講時限	秋学期 金曜日 5時限
科目区分	経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	潘 聡 (名古屋商科大学)	office hour	

【講義の目的】

産業組織論(Industrial Organization, IO)は、企業の行動、市場の

構造、政府の政策の影響など、供給側への分析を通して、財やサービスの生産、販売が市場で効率的に行われているかどうかを評価することを課題とします。本講義は、産業組織論の理論で必要とされる基本知識の習得を目的とします。受講生が寡占の理論モデルを理解した上で、企業の製品差別化、価格差別、垂直取引関係などの現象に関して、自主的探究力の育成を目的とします。

【授業内容】

- 1 同質材価格競争（ベルトランモデル）、同時手番の数量競争（クールノーモデル）
- 2 第1回の内容を応用した例として、Ishibashi and Matsushima (2009)を紹介しします
- 3 逐次手番の数量競争（シュタッケルベルグモデル）
- 4 第1回から第3回の内容を応用した例として、Hamilton and Slutsky (1990)とPan (2018)を紹介しします
- 5 製品の水平差別化（ホテリングモデル）
- 6 製品の垂直差別化
- 7 価格差別1（独占）
- 8 価格差別2（複占）
- 9 垂直取引関係1：二重限界性と垂直統合
- 10 垂直取引関係2：二部料金契約とナッシュ交渉
- 11 第10回の内容を応用した例として、Milliou and Petrakis (2009)を紹介しします
- 12 垂直取引関係3：川上企業の機会主義行為（opportunistic behavior）と垂直的市場閉鎖（vertical foreclosure）
- 13 第12回の内容を応用した例として、Rey and Verge (2004)とReisinger and Tarantino (2015)を紹介しします
- 14 垂直取引関係4：製造業者の侵食行為（supplier encroachment）
- 15 第14回の内容を応用した例として、Pan (2019)を紹介しします

【成績評価方法】

各講義における発言（20%）ならびに最終課題（80%）で評価します。最終課題は、数ページの小論文作成、もしくは、公刊済みの関連研究に対する査読報告書作成です。ただし、小論文の場合、最終評価は加点対象とします。最終課題が未提出の場合は「欠席」とします。

【予備学習の指示】

講義で使用する先行研究は事前に指定するので、読んでおくことを要求します。または、講義終了後に習得した内容を解きなおすことも要求します。

【教科書・参考書】

講義資料を配布します。ただし、関連する論文を事前に用意しておいてください。

Belleflamme, Paul and Peitz, Martin. 2015. Industrial Organization (2nd ed.). Cambridge University Press. Tirole, Jean. 1988. The Theory of Industrial Organization. MIT Press.

【履修条件・注意事項】

ミクロ経済学、ゲーム理論、数学に関する知識を有することを前提にした講義です。

講義資料は英語で作成します。講義の言語は基本的に日本語にしますが、場合によって英語での質問応対も可能。

授業科目名	国際経済特論 (2単位)	開講時期	秋学期 月曜日 5時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	柳瀬 明彦 (大学院経済学研究科)	office hour	By appointment

【講義の目的】

This course offers materials in international trade theory

under perfect competition. The goal is to enhance students' research ability by complete understanding of basic models of international trade and their applications.

【授業内容】

- 1 Introduction and mathematical preliminaries
- 2 Ricardian model of international trade 1: Basic two-sector model
- 3 Ricardian model of international trade 2: Multi-sector model
- 4 Applications of Ricardian trade model 1: Productivity growth
- 5 Applications of Ricardian trade model 2: Trade policy
- 6 Heckscher-Ohlin model 1: Preliminary analysis
- 7 Heckscher-Ohlin model 2: Equilibrium
- 8 Heckscher-Ohlin model 3: Basic theorems
- 9 Applications of Heckscher-Ohlin model 1: Trade policy
- 10 Applications of Heckscher-Ohlin model 2: Economic growth
- 11 Duality analysis in trade models 1: Preliminary analysis
- 12 Duality analysis in trade models 2: Equilibrium and comparative statics
- 13 Duality analysis in trade models 3: Gains from trade
- 14 Summary
- 15 Final exam

【成績評価方法】

Participation in class, homework, and final exam. The course withdrawal system is applied; students who do not take the final exam will receive an F grade.

【予備学習の指示】

Review basics in undergraduate-level microeconomics, linear algebra, and calculus.

【教科書・参考書】

To be announced in the first class.

【履修条件・注意事項】

授業科目名	財政特論 (2単位)	開講時期	春学期 木曜日 5時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	飯島 信幸 (国際経済政策研究センター)	office hour	講義終了後又は随時予約

【講義の目的】

この講義では、公共サービスの財源としての租税について、現行制度の理解に加え、制度論及び政策論的観点から考察することによって、租税政策についての自主的探究力を育成することを目的とします。

【授業内容】

- 1 イントロダクション、我が国財政の現状と課題
- 2 平成31年度税制改正等について 1
- 3 平成31年度税制改正等について 2
- 4 平成31年度税制改正等について 3
- 5 消費課税 1
- 6 消費課税 2
- 7 消費課税 3
- 8 消費課税 4
- 9 所得課税 1
- 10 所得課税 2
- 11 所得課税 3
- 12 資産課税 1

- 13 資産課税 2
- 14 資産課税 3
- 15 予備・まとめ

【成績評価方法】

期末試験の成績を基本としつつ、講義への出席状況・参加姿勢なども踏まえて評価する。

履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

特になし。

【教科書・参考書】

教科書は使用しない。参考書については講義の中で紹介する。

【履修条件・注意事項】

毎回、原則、レジュメをNUCTに事前配付するので、NUCT掲載の資料を持参すること(講師の都合でNUCTで事前配付しない場合は、講義時の資料配付、スライドの映写等により講義を行う。)

授業科目名	金融特論 (2単位)	開講時限	春学期 木曜日 1時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	齊藤 誠 (大学院経済学研究科)	office hour	木曜日 2時限

【講義の目的】

本講義では、古今東西の通貨と信用の歴史を振り返る作業を踏まえて、現代の金融の諸課題(たとえば、非常に攻撃的な量的金融緩和、暗号通貨の普及、金融危機の予防と対応など)を解明する視座を得ることを目的とする。

This lecture devotes its two thirds to a history of credits and currencies in both western and eastern countries, and the remaining one third to discussions of current policy issues, including cryptocurrencies, quantitative easing, and financial crises, in the historical contexts,

【授業内容】

- 1 人間関係のなかにある金融：約束と信用、貨幣の聖俗、信用の膨張と抑制
- 2 共同体における交換と信用：信用なき物々交換と略奪、信用と貨幣の螺旋階段、記憶としての貨幣
- 3 銀行の誕生：譲渡可能な預金、預託から預金へ、口頭の約束から文書の契約へ
- 4 信用創造：信用を超越する信用、株式会社の誕生、中央銀行の誕生、バブル狂騒曲、国家の金融から産業の金融へ
- 5 越境する通貨と信用：外国為替手形、金本位制の栄光と挫折、基軸通貨、非常時の外国為替
- 6 銀の世界、金の世界：新大陸の銀と価格革命、金本位制度とゴールドラッシュ、19世紀米国の通貨論争、貨幣数量説の起源
- 7 中央銀行の形：決済のプラットフォーム、最後の貸し手、物価の安定と経済の安定、セニョリッジ
- 8 貨幣と信用の日本史：古代の貨幣と信用、中世の信用と徳政、戦国時代の国際金融、江戸時代金融の爛熟、戦争と金融、沖縄返還と通貨
- 9 利子をめぐる攻防：近代のための神学に向けて
- 10 破約に対する過酷と寛容：返済をめぐるモラルとペナルティー
- 11 証券取引の風景：店頭の取引、取引所の取引
- 12 デリバティブの世界：「信用を超越した信用」を超越する信用
- 13 金融史から見た暗号通貨の世界：暗号通貨は信用貨幣なのか、铸貨なのか
- 14 金融史から見た金融危機への対応：危機における人間たち

- 15 金融史から見た攻撃的な量的緩和政策：量的緩和による信用創造の限界、負の金利政策の帰結

【成績評価方法】

提出期限1週間を目途とした持ち帰りの試験を課す。

【予備学習の指示】

岩村充『貨幣進化論：成長なき時代の通貨システム』『中央銀行が終わる日：ビットコインと通貨の未来』(いずれも新潮選書)を読んでおくことを薦める。

【教科書・参考書】

最初の講義で関連論文のリーディングズを配布する。参考書としては、デヴィッド・グレーバー『負債論：貨幣と暴力の5000年』(以文社、2016年)を主として用いる。

【履修条件・注意事項】

受講者が毎週、論文や参考書を精読しておくことを前提とする講義である。

This lecture will be taught in Japanese.

授業科目名	公共経済特論 (2単位)	開講時限	秋学期 火曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	薛 進軍 (国際経済政策研究センター)	office hour	

【講義の目的】

This course will teach you some basic economic theories of development economics first, then provide a series lessons on economic development in Japan after World War II to present. To attract students and make the lessons easy understanding and interesting, some videos, historical documents, social phenomena, peoples 'story, etc. will be used in the lectures.

This course aims at giving student basic knowledge of Japan and Japanese economy, as well as Japanese culture and society. Promoting mutual understanding between oversea students and Japanese students, enhancing their interesting in economics and cultivating their capability of viewing things independently and doing investigation by themselves, are final goals of the course.

【授業内容】

- 1 Introduction to Development Economics
- 2 Economic Recovery and High Growth in Japan
- 3 The Environmental Cost of Japan's High Growth
- 4 The Japan-US Trade War and its Lessons
- 5 Japanese Bobble Economy and its Lessons
- 6 Flying Geese Paradigm and Oversea Industrial Transformation
- 7 Japan's Climate and Energy Policy
- 8 The Beautiful Japan Plan and Low-carbon Society
- 9 Low-carbon Transportation in Japan
- 10 Birthrate Decline and Aging Society
- 11 Garbage Disposal in Japan
- 12 Japan's Entertainment Industries: Carton, Girls Dancing and Popular Music
- 13 Stories Behind the Nobel Prize Rush
- 14 Discoverer Japan: Where to go, Where to study, Where to stay, What to eat and What to experience
- 15 Free Discussion

【成績評価方法】

出席40%、期末で授業内容のまとめは60%。

Presence and participation 40%, Summary the contents of the lessons 60%

【予備学習の指示】

【教科書・参考書】

Textbooks: Lesson's contents, PPT, copies and materials will be distributed by TA.

Reference books:

八代 尚宏 (著)『日本経済論・入門 新版 - 戦後復興からアベノミクスまで』有斐閣、2017年。M. Todaro, Economic Development, 10th ed. Longman, New York, 2011;

Mark Chuang, 『英語で学ぶ日本の経済とビジネス An Insight in to the Japanese Economy』, Sanshusha, 2014.

【履修条件・注意事項】

この授業は英語で行うのである程度の英語力が必要です。

授業科目名	現代資本主義特論 (2単位)	開講時限	秋学期 木曜日 5時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	藤田 真哉 (大学院経済学研究科)	office hour	金曜日 12時～13時

【講義の目的】

本講義の前半ではポスト・ケインズ派経済学の分配理論を、後半ではアメリカ・ラディカル派の分配理論を概説する。両派の理論を学習することを通じて、所得分配に関するマクロ的・ミクロ的問題を分析する自主的探究力を育むことを目標としている。

【授業内容】

- 1 ガイダンス
- 2 ポスト・ケインズ派経済学の基礎
- 3 価格理論と分配理論 I
- 4 価格理論と分配理論 II
- 5 価格理論と分配理論 III
- 6 価格理論と分配理論 IV
- 7 機能的所得分配と経済成長
- 8 アメリカ・ラディカル派の基礎
- 9 分配理論 I
- 10 分配理論 II
- 11 分配理論 III
- 12 分配理論 IV
- 13 経済実験による分配問題への接近 I
- 14 経済実験による分配問題への接近 II
- 15 まとめ

【成績評価方法】

平常点（主に出席と報告）により評価する。出席が30パーセント以下の場合は「欠席」とする。

【予備学習の指示】

特になし。

【教科書・参考書】

以下の図書と、最新の英語論文を輪読する。論文は初回のガイダンスにおいて紹介する。

サミュエル・ポウルズ著、佐藤良一ほか訳（2013）『不平等と再分配の新しい経済学』大月書店。

【履修条件・注意事項】

「政治経済学Ⅰ」、「政治経済学Ⅱ」、「現代資本主義」の単位をすべて取得していることが望ましい。また、本講義の履修者は初回のガイダンスに必ず出席しなければならない。

授業科目名	経済学史特論 (2単位)	開講時限	秋学期 火曜日 5時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	加藤 里紗 (大学院経済学研究科)	office hour	火曜日 4時限

【講義の目的】

この講義は、経済学が「環境」をどのように扱ってきたのかについて歴史的に検討することによって、自主探求力を育むことを目的とする。

【授業内容】

- 1 イントロダクション：環境とは何か
- 2 環境経済学 概説
- 3 古典派経済学と環境①
- 4 古典派経済学と環境②
- 5 制度経済学と環境①
- 6 制度経済学と環境②
- 7 制度経済学と環境③
- 8 エコロジー経済学①
- 9 エコロジー経済学②
- 10 環境VS経済？
- 11 持続可能な発展
- 12 エコロジー的近代化論
- 13 グリーン成長論
- 14 経済学を超えて
- 15 総括

【成績評価方法】

出席、報告、議論への参加によって評価する。履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

報告者はレジュメを作成すること。報告者以外も、授業で扱う文献を事前に必ず読んでおくこと。

【教科書・参考書】

参考書：佐和隆光・植田和弘編『環境の経済理論』岩波書店、2002年

その他講義で使う文献については講義中に指示する。

【履修条件・注意事項】

経済学史の基礎的な知識があることが望ましい。英語論文を含む文献を読み、報告・議論してもらうことで授業を進めます。初回の講義で分担を決めるので、履修希望者は初回授業に出席してください。

授業科目名	社会思想史特論 (2単位)	開講時限	春学期 金曜日 5 時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	長尾 伸一 (大学院経済学研究科)	office hour	金曜4:30~5:00

【講義の目的】

現代世界においてもいまだに重要な意味を持っているヨーロッパ近代思想、とくに18世紀の「啓蒙」思想をとりあげ、その起源、概要を検討しながら、それが現代においてどのような問題を含み、今世紀の人類に問いかけている意味を考え、自主的探求力の育成をはかる。

【授業内容】

- 1 社会思想史とは何か
- 2 二つの社会
- 3 人間の二つのソーシャリティ
- 4 「近代」の概念をめぐって
- 5 政治、社会思想上の「近代」
- 6 「近代」の批判と現代の思想
- 7 啓蒙の起源：懐疑主義
- 8 啓蒙の起源：複数世界論
- 9 複数世界論と啓蒙の形而上学
- 10 啓蒙と科学
- 11 記号体系としての科学
- 12 「現実世界」の誕生
- 13 啓蒙における文明と未開
- 14 日常世界の眼差し
- 15 文明批判と反啓蒙思想

【成績評価方法】

講義の参加に基づいて評価する

【予備学習の指示】

とくになし。

【教科書・参考書】

Shinichi Nagao, Politics and Society in Scottish Thought (Library of Scottish Philosophy Book 7), Imprint Academic or Kindle, 2007

【履修条件・注意事項】

講義は英語で行う予定。出席率が30%以下の場合は欠席とする

授業科目名	日本経済史特論 (2単位)	開講時限	秋学期 火曜日 2 時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	木越 義則 (大学院経済学研究科)	office hour	随時

【講義の目的】

この講義では、東アジアの経済発展の歴史的歩みを欧米の経験と比較することで、経済発展とは何かについて自主的に探求する力を育成することを目指します。

【授業内容】

- 1 世界史のなかの東アジア (教科書・序章)
- 2 東アジアの近世 (教科書・第1章)
- 3 東アジアの開国と開港 (教科書・第2章)
- 4 明治維新と東アジアの近代化の模索 (教科書・第3章)

- 5 中国伝統経済の変容 (教科書・第4章)
- 6 中国近代経済の形成 (教科書・第5章)
- 7 日本帝国の農業発展 (教科書・第6章)
- 8 日本帝国の工業発展 (教科書・第7章)
- 9 中国地域経済の展開と日中戦争 (教科書・第8章)
- 10 日本帝国の総動員体制と大東亜共栄圏 (教科書・第9章)
- 11 環太平洋経済の形成と東アジアの高度成長 (教科書・第10章)
- 12 人民中国の成立と富国への道のり (教科書・第11章)
- 13 「世界の工場」東アジア (教科書・第12章)
- 14 まとめと展望 (教科書・終章)
- 15 補論：経済史学の方法

【成績評価方法】

授業での発表、出席から総合的に評価する。出席が3分の2を下回る場合は「欠席」とする。

【予備学習の指示】

日本史、世界史の概説書を通読しておくことが望ましい。

【教科書・参考書】

教科書：堀和生・木越義則『東アジア経済史』(日本評論社、2019年刊行予定)。

参考書：沢井実・谷本雅之『日本経済史』(有斐閣、2016年)。

【履修条件・注意事項】

毎回テキストの指定箇所を通読の上参加すること。最低1回以上はレジュメを作成の上発表すること。

授業科目名	西洋経済史特論 (2単位)	開講時限	秋学期 木曜日 3 時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	福澤 直樹 (大学院経済学研究科)	office hour	Thursday, 15:00~16:00

【講義の目的】

The modern economy is determined by the market-oriented economic order which has been typically developed in Europe and North America. In this course students learn the bases, backgrounds and logics for historical emergence of such an economic order in the West (also in considering its influence to the rest of the world) and the essence of the modern economic society on their own motive and interest, whereby the voluntary exploration ability (自主的探究力) will be fostered.

【授業内容】

- 1 Introduction — Significance of learning Western (Occidental) Economic History in Japan
- 2 Historical Phases of Various Economic Societies — Fundamental Framework
- 3 Economic Relations in Medieval Europe (corresponds to the first half of Ch. 3)
- 4 Erosion of the Economic Relations of Medieval Europe (second half of Ch. 3)
- 5 Expansion of the Economic Activities of the European (Ch. 5)
- 6 Economic Nationalism (Mercantilism / Imperialism: Spain, Portugal and France) (1/2 of Ch. 6)
- 7 Economic Nationalism (Mercantilism / Imperialism: Netherlands and Britain) (2/2 of Ch. 6)
- 8 Daybreak for the Industrialization (Ch. 7)
- 9 Aftermath of the Feudalism --- Revolutions and Reforms
- 10 Emergence of new economic society (Industrial Revolution and Institutional Framework) (Ch. 8)

- 11 Patterns of Industrialization (Great Britain, the United States and Belgium) (1/2 of Ch. 9)
- 12 Patterns of Industrialization (France and Germany) (2/2 of Ch. 9)
- 13 Influence of Western Industrialization to the rest of the world
- 14 Perspective for modern economic society in the Aftermath
- 15 Summary of the course

【成績評価方法】

Criterion for evaluation is students' capability to develop the arguments in the lecture and to apply them to their own thinking. It will be determined from:

Final Examination: 60% Active Participation to the discussion: 10% Essay: 30%.

【予備学習の指示】

Instructions will be given in each cases. NUCT will be used.

【教科書・参考書】

Cameron, Rondo / Neal, Larry, A Concise Economic History of the World --- From Paleolithic Times to the Present, 4th ed., Oxford Univ. Press, 2003. (Handouts will be distributed.) [邦訳書、あり]

【履修条件・注意事項】

Although this lecture will be held in English, Japanese will also be used in order to enhance the understanding for Japanese students who take part in this course together.

授業科目名	経営労務特論 (2単位)	開講時限	春学期 火曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	江夏 幾多郎 (大学院経済学研究科)	office hour	メールにて随時調整

【講義の目的】

この講義では、人事管理論にまつわる主要ジャーナルに掲載された英字論文を輪読する。過去および最新の議論に触れることで、企業経営に関する研究や実務をより効果的に行うことについての自主的探求力を養うことを目指す。

【授業内容】

- 1 ガイダンス
- 2 輪読1
- 3 輪読2
- 4 輪読3
- 5 輪読4
- 6 輪読5
- 7 輪読6
- 8 輪読7
- 9 輪読8
- 10 輪読9
- 11 輪読10
- 12 輪読11
- 13 輪読12
- 14 予備日
- 15 予備日

【成績評価方法】

(1) 作成資料の提出頻度と質、(2) 討議への積極的・建設的な貢献、に応じて行う。出席できない回数が合計で4以上の場合、「欠席」とする。

とする。欠席した回についての事後的な資料提出を認めるが、それは「0.5回分」の出席とカウントする。

【予備学習の指示】

全ての受講者には、毎回の講義に際し、取り扱う文献を読んだ上で、グループ討議で扱うべき事柄をリストした資料を作成することが求められる。さらに、各回で1名ずつ、その日に取り扱う論文を整理・要約した資料を作成することが求められる。

【教科書・参考書】

使用する論文については、ガイダンスの際に電子データを渡すので、USBの利用が可能な電子機器を持参すること。

【履修条件・注意事項】

この講義は、毎週10～20ページの英語の論文を読む大学院講義を、適性のある一部学部生に開放するものである。英語文献を読む一定以上の能力や意志を持たない学生の参加は勧めない。また、人事管理についての基礎知識を「すでに」有していることが履修の条件となる。講義に先んじて、学部講義レベルの知識を教科書を読むなどして改めて習得していただきたい。また、各回の報告者を決める都合上、初回に参加できなかった者については、講義への参加を原則として認めない。

授業科目名	ファイナンス特論 (2単位)	開講時限	秋学期 火曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	中島 英喜 (大学院経済学研究科)	office hour	開講後アナウンス します

【講義の目的】

本講義では、学部レベルの金融経済学（フィナンシャル・エコノミクス）の知識を既に習得している学生を対象として、この分野における自主的探求力のさらなる育成を図る。本講義のゴールは、(1) 現代投資理論（MPT）に基づくポートフォリオ選択の実行、(2) 資産価格の標準的な評価式（CAPM）の導出、(3) CAPMを用いた株価評価の3つであり、PCを用いた演習も適宜行う。

【授業内容】

- 1 イントロダクション、基本的な用語の定義
- 2 キャッシュフローの4分類、資産市場の分類
- 3 金利と債券価格（裁定取引と無裁定条件）
- 4 株式投資と効率的市場仮説
- 5 確率と統計（演習課題）
- 6 不確実性下の意思決定と期待効用仮説
- 7 稲作モデル（1）
- 8 稲作モデル（2）
- 9 期待効用最大化原理とポートフォリオ選択
- 10 MPTと分離定理
- 11 等質期待仮定と資本市場線
- 12 CAPMと証券市場線
- 13 CAPMの実証
- 14 完全市場における株価の評価
- 15 総復習

【成績評価方法】

小テスト、レポート（5回程度）。履修取り下げは出席6割未満、もしくは本人からの連絡により判断する。

【予備学習の指示】

右記参照 <http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~nakashima/FEM/index.htm>

【教科書・参考書】

テキストは指定しない。適宜教材を提供する。

参考図書：(1) 小林孝雄, 他「新・証券投資論 (理論編)」(日本経済新聞社)、
(2) リチャード・ブリーリー, 他「コーポレート ファイナンス」(日経BP社)。

【履修条件・注意事項】

教養レベルの微分・積分、および学部レベルの確率・統計の知識(共分散や回帰分析の定義や内容を説明できる程度の知識)が必須。受講対象は卒業論文等でCAPMを使う必要がある者を想定。

授業科目名	生産管理特論 (2単位)	開講時限	秋学期 木曜日 2時限
科目区分	専門科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	山田 基成 (大学院経済学研究科)	office hour	木曜日 13:00~14:00

【講義の目的】

この講義では、運営管理とサプライチェーン・マネジメントのテキストを用いて、生産とサービスの経営に関する専門的な知識を深め、自主的な探究力を育成することを目指します。

【授業内容】

- 1 Introduction
- 2 Design of Products and Services
- 3 Strategic Capacity Management
- 4 Manufacturing Processes
- 5 Facility Layout
- 6 Service Processes
- 7 Process Design and Analysis
- 8 Statistical Quality Control
- 9 Lean Supply Chain
- 10 Logistics, Distribution and Transportation
- 11 Global Sourcing and Procurement
- 12 Enterprise Resource Planning Systems
- 13 Sales and Operations Planning
- 14 Inventory Management
- 15 Material Requirements Planning

【成績評価方法】

成績評価は、講義への出席、討論への参加、課題レポートなどにより総合的に評価します。

出席が30%以下の場合「欠席」とする。

【予備学習の指示】

受講者には毎回、テキストを熟読した上で出席することを求める。

【教科書・参考書】

F. Robert Jacobs & Richard B. Chase (2018) *Operation and Supply Chain Management, 15th ed.*, McGraw-Hill Education.

【履修条件・注意事項】

前期に開講される生産管理の単位を取得していること。

英語の文献を読むのに慣れておくこと。

授業科目名	マーケティング特論 (2単位)	開講時限	春学期 火曜日1時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	山口 景子 (大学院経済学研究科)	office hour	By appointment

【講義の目的】

This course is designed for students who seek to conduct an original research in the field of marketing science. The aim of this course is to introduce a wide range of cutting-edge studies on marketing/marketing science and help students develop self-motivated research ability for the future.

【授業内容】

- 1 Introduction
- 2 History of marketing science
- 3 Paper #1 and discussion
- 4 Paper #2 and discussion
- 5 Paper #3 and discussion
- 6 Paper #4 and discussion
- 7 Paper #5 and discussion
- 8 Paper #6 and discussion
- 9 Free discussion on the topics from the 2nd to 8th class.
- 10 Paper #7 and discussion
- 11 Paper #8 and discussion
- 12 Paper #9 and discussion
- 13 Paper #10 and discussion
- 14 Paper #11 and discussion
- 15 Summary

【成績評価方法】

Your final grade will be decided based on attendance (including in-class contribution): 30%, the quality of presentation assignments: 50%, the term paper: 20%.

The course withdrawal system is adopted. Students can withdraw from this course by submitting a request form by the end of May.

【予備学習の指示】

All participants are expected to read assigned paper beforehand.

【教科書・参考書】

Will be introduced in the 1st class.

【履修条件・注意事項】

[Attention!] This course is a joint class for both undergraduates and graduates, though, mainly designed for graduates.

Basic knowledge about marketing, statistics, and matrix algebra are required.

Students who skip the 1st class without prior approval by the instructor are NOT accepted.

授業科目名	経営組織特論 (2単位)	開講時限	秋学期 金曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	犬塚 篤 (大学院経済学研究科)	office hour	質問は講義中にすること(毎回、質問のタイミングを用意する)

【講義の目的】

本講義では、組織論の基礎をレビューした後に、組織現象としてのリーダーシップ論について、批判的に検討を重ねていく。Empirical Studyでは、これらの各論に関する原著論文に触れながら、社会科学系の研究論文の読み方と書き方に関するアカデミック・トレーニングを行い、自主的探求力の育成を図る。

【授業内容】

- 1 イントロダクション：社会科学における実証とは
- 2 社会研究の工具箱
- 3 組織設計とインセンティブ体系(1)
- 4 組織設計とインセンティブ体系(2)
- 5 Empirical Study 1
- 6 Empirical Study 2
- 7 リーダーシップの基礎理論(1)
- 8 リーダーシップの基礎理論(2)
- 9 Empirical Study 3
- 10 Empirical Study 4
- 11 新しいリーダーシップ論(1)
- 12 新しいリーダーシップ論(2)
- 13 Empirical Study 5
- 14 Empirical Study 6
- 15 まとめ：「良い論文」の書き方

【成績評価方法】

Empirical Studyレポート(10点×6回)＋期末レポート(40点)±授業参加度

【予備学習の指示】

Empirical Studyでは、指定される原著論文(すべて英文)を深く読解してから、講義に臨むこと。

【教科書・参考書】

教科書：なし。履修登録後、講義ノート、NuCT (<https://ct.nagoya-u.ac.jp/portal>)より配布する。

参考書：Chemers, M. M.(1997), An Integrative Theory of Leadership, Lawrence Erlbaum Associates.
(白樫三四郎訳(1999)『リーダーシップの統合理論』北大路書房)。

【履修条件・注意事項】

統計学の基礎知識、および中級以上の英文読解力を必要とする。大学院生向け授業のため、講義内容は高度であることを覚悟されたい。学部生向けの特別な配慮(就活等)も一切しない。

Empirical Studyに二回以上欠席をした者、期末レポート未提出の者を「欠席」とする。Empirical Studyでは、議論への積極的参加が求められる(非積極的な学生には、減点もあり得る)。

授業科目名	経営戦略特論 (2単位)	開講時限	春学期 月曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	宮崎 正也 (大学院経済学研究科)	office hour	月曜 1時限 (事前予約を求める)

【講義の目的】

この講義では、複数の実務家たちの話を紹介し、企業で実践されている戦略の事例を分析的に検討します。その内容について参加者たちと一緒に議論しながら知的刺激を味わう機会を提供することで、経営戦略論に対する学部学生たちの自主的探求力を覚醒させます。

【授業内容】

- 1 講義の進め方について説明
- 2 事例として取りあげる企業について事前の調べ学習(大学院生受講者から報告)
- 3 事例として取りあげる企業について事前の調べ学習(大学院生受講者から報告)
- 4 企業の事例講義(実務家ゲスト・スピーカー)と討議、その1
- 5 企業の事例講義(実務家ゲスト・スピーカー)と討議、その2
- 6 企業の事例講義(実務家ゲスト・スピーカー)と討議、その3
- 7 企業の事例講義(実務家ゲスト・スピーカー)と討議、その4
- 8 企業の事例講義(実務家ゲスト・スピーカー)と討議、その5
- 9 企業の事例講義(実務家ゲスト・スピーカー)と討議、その6
- 10 企業の事例講義(実務家ゲスト・スピーカー)と討議、その7
- 11 企業の事例講義(実務家ゲスト・スピーカー)と討議、その8
- 12 企業の事例講義(実務家ゲスト・スピーカー)と討議、その9
- 13 企業の事例講義(実務家ゲスト・スピーカー)と討議、その10
- 14 事前に調べた成果と事例講義を受けた後で得られた成果の比較検討
- 15 事例講義のまとめと質疑応答

【成績評価方法】

講義への参加度合い(出席＋発言)と、課題レポート(最低8回以上提出)により、総合的に評価します。

「履修取り下げ制度」を採用しないので、課題未達成であれば「欠席」扱いとします。

【予備学習の指示】

とくになし。

【教科書・参考書】

参考書：『コア・テキスト事業戦略』 新世社、宮崎正也 著

履修条件

とくになし。

注意事項：この講義は、大学院講義と合同開講です。

授業科目名	財務会計特論 (2単位)	開講時限	春学期 木曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	野口 晃弘 (大学院経済学研究科) アーマドバ・メリバン (大学院経済学研究科)	office hour	Monday 13:30-14:30 With appointment

【講義の目的】

The purpose of this lecture is to provide students with an understanding of the theory and application of IFRSs. This course is intended to enhance the voluntary exploration ability of students.

【授業内容】

- 1 Introduction
- 2 Equity in Japan
- 3 Chapter 15 Equity (1)
- 4 Chapter 15 Equity (2)
- 5 Equity in other countries

- 6 Chapter 16 Dilutive Securities (1)
- 7 Chapter 16 Dilutive Securities (2)
- 8 Chapter 16 Earnings per Share
- 9 Chapter 17 Investments (1)
- 10 Chapter 17 Investments (2)
- 11 Chapter 17 Investments (3)
- 12 Chapter 18 Revenue (1)
- 13 Chapter 18 Revenue (2)
- 14 Chapter 18 Revenue (3)
- 15 Summary

Grades: Attendance (25%), homework (25%), presentation (25%), and essay (25%). Not submitting homework will be graded as "absent".

Requirements: You will be required to read all of the assigned readings and prepare presentation for the assigned accounting issues. You are responsible for knowing about any changes in the syllabus, or any other information announced in class. You are responsible to attend every class. No make-ups will be allowed without prior approval by the instructor.

Textbook: Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield, Intermediate Accounting, IFRS Edition Third edition, Wiley, 2018.

Reminder: Ability to speak and discuss intermediate accounting in English will be required to attend the class.

授業科目名	管理会計特論 (2単位)	開講時限	春学期 木曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	坂口 順也 (大学院経済学研究科)	office hour	講義後 (要予約)

【講義の目的】

この講義では、日本語の論文や著書を利用して、管理会計の個々の研究トピックについての知識の獲得と自主的探究力を養成することを目的とします。

【授業内容】

- 1 イントロダクション
- 2 近年の研究動向
- 3 マネジメント・コントロールの利用方法1
- 4 マネジメント・コントロールの利用方法2
- 5 マネジメント・コントロールの影響要因1
- 6 マネジメント・コントロールの影響要因2
- 7 財務指標と非財務指標の利用 1
- 8 財務指標と非財務指標の利用 2
- 9 マネジメント・コントロールの利用方法3
- 10 マネジメント・コントロールの利用方法4
- 11 組織間マネジメント・コントロール 1
- 12 組織間マネジメント・コントロール 2
- 13 コスト・ビヘイビア1
- 14 コスト・ビヘイビア2
- 15 まとめ

【成績評価方法】

レポート (50%)、授業への出席と発表 (30%)、議論への参加態度 (20%) で評価します。

履修取り下げ制度は採用しません。出席が5回以下の場合「欠席」と評価します。

【予備学習の指示】

授業で取り扱う論文や章については、必ず予習して下さい。

【教科書・参考書】

資料は講義中に指示もしくは配布する。

参考書：澤邊紀生・堀井悟志監訳.2008.『戦略をコントロールする：管理会計の可能性』中央経済社。

【履修条件・注意事項】

管理会計と経営学の基礎知識があることを前提とします。履修したい場合は初回に出席し相談して下さい。This course will be taught in Japanese.

授業科目名	監査特論 (2単位)	開講時限	春学期 木曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	仙場 胡丹 (大学院経済学研究科)	office hour	講義後、要アポイントメント

【講義の目的】

本講義では、「監査」研究・実務において重要な概念である「監査の質」に焦点を合わせ、その概念や統計学的アプローチを用いた場合の日本市場の実態などの研究成果を受講者と一緒に確認する。「監査」領域や「会計学」領域における統計的研究手法に馴染んでもらい、当該領域等における基礎的分析力・自主的探究力、計量的分析を用いる研究能力・応用能力を育むことも目的として掲げる。さらに、本講義では、グループごとの発表や議論などを予定していることから、プレゼンテーション能力、リーダーシップ能力、協調性を育むことも期待できる。なお、学期中2回にわたり、「監査」実務に携わる外部講師(日本公認会計士協会東海会より派遣を受ける予定)による実務の現場視点からの報告も予定している。

【授業内容】

- 1 イントロ
- 2 「監査の質」の概念
- 3 英国FRCによる監査の質
- 4 IAASBによる監査の質
- 5 米国PCAOBによる監査の質
- 6 監査の質の評価フレームワークと監査領域における重要概念との関係
- 7 監査の質のアカデミック実践的測定
- 8 ビッグデータと会計監査(仮題)(外部講師による)
- 9 監査の信頼性回復に向けて(仮題)(外部講師による)
- 10 監査の質の提供側のインセンティブ・能力と監査の質
- 11 監査の質の提供側のインセンティブ・能力である監査法人の規模と監査の質
- 12 監査の質の提供側の能力である業種特化と監査の質
- 13 監査の質の提供側のインセンティブと市場の反応：オリンパス事件からの証拠
- 14 監査の質の提供側のインセンティブ・能力である監査報酬と監査の質
- 15 総括

【成績評価方法】

出席の状況 (30%ぐらい)、プレゼンテーションや議論に関わる度合いなど講義への貢献度 (45%ぐらい) およびレポート (25%ぐらい) を総合して評価する。なお、本講義ではレポートの不提出者は、「欠席」とする。

【予備学習の指示】

必要に応じて、指示する。

【教科書・参考書】

『グローバル時代における監査の質の探究』仙場胡丹著，千倉書房，2016年。

【履修条件・注意事項】

1. 教科書が必要であるので、原則購入してください。2. 履修したい場合、初回は必ず出席すること。3. 本講義を受講するにあたり、会計学に関する基礎知識が必要である。4. 講義を進めるため、<http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~kotan/>を利用することがある。

授業科目名	経営分析特論 (2単位)	開講時限	秋学期 水曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	角ヶ谷 典幸 (大学院経済学研究科)	office hour	火曜日 12:00~13:00 (予約すること)

【講義の目的】

この講義では、教科書などを輪読しながら、経営分析を行う際の自主的探求力を育成することを目的とする。

【授業内容】

- 1 インTRODククション
- 2 投資とバリュエーション入門
- 3 財務諸表入門
- 4 財務諸表をどのようにバリュエーションに用いるのか
- 5 現金主義会計、発生主義会計、割引キャッシュフロー評価
- 6 発生主義会計とバリュエーション：簿価のプライシング
- 7 発生主義会計とバリュエーション：利益のプライシング
- 8 貸借対照表と損益計算書の分析
- 9 キャッシュフロー計算書の分析
- 10 収益性の分析
- 11 事業活動の価値
- 12 財務諸表に基づく予測とバリュエーション
- 13 バリュエーション
- 14 財務諸表の質の分析
- 15 まとめ

【成績評価方法】

平常点（プレゼンテーション・出席など） 80点
 テスト／レポート 20点
 （履修取り下げ制度は採用しない。テストを受けない者・レポートを提出しない者は「欠席」とする。）

【予備学習の指示】

講義中の議論に参加できるように、講義の前に教科書を読んでくること。

【教科書・参考書】

S.H.ペンマン著，荒田映子・大雄智・勝尾裕子・木村晃久訳『財務諸表分析とバリュエーション』有斐閣。

【履修条件・注意事項】

講義は主に日本語で行う。

This course will be taught mainly in Japanese.

授業科目名	国際会計特論 (2単位)	開講時限	秋学期 金曜日 1時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	野口 晃弘 (大学院経済学研究科) アーマドバ・メー リバン (大学院経済学研究科)	office hour	Monday 13:30~14:30 With appointment

【講義の目的】

The lecture is intended to provide an opportunity for students to learn and understand international aspects of accounting. Unique feature of Japanese accounting would be also explained. This course enhances voluntary exploration ability of students.

【授業内容】

- 1 Introduction
- 2 Japanese Accounting
- 3 Group accounting
- 4 The concept of a 'group'
- 5 Techniques of consolidation
- 6 Foreign currency translation
- 7 The temporal method versus the closing rate method
- 8 Translation of comprehensive income
- 9 Segment reporting
- 10 International Auditing
- 11 Islamic Accounting
- 12 Enforcement of financial reporting standards
- 13 Japanese Accounting Research
- 14 Presentations
- 15 Summary

Grades: Attendance (25%), homework (25%), and oral presentation (25%), essay (25%).

The procedure for “withdrawing the course” will not be applied. Not submitting essay will be graded as ‘Absent’.

Requirements: You will be required to read all of the assigned readings and prepare presentation for the assigned accounting issues. You are responsible for knowing about any changes in the syllabus, or any other information announced in class. You are responsible to attend every class. No make-ups will be allowed without prior approval by the instructor. Essay has to be short; A4 size paper 4 pages.

Christopher Nobes & Robert B. Parker, Comparative International Accounting, Pearson Education Limited; 13th edition.

Reminder: Ability to speak and discuss accounting and bookkeeping in English will be required to attend the class.

授業科目名	経営情報特論 (2単位)	開講時限	春学期 月曜日 5時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	樋野 励 (大学院経済学研究科)	office hour	随時

【講義の目的】

生産管理のための応用力を向上のために、情報の獲得方法と応用方法を学ぶ。本講義では数学的な取り組みとそれらの応用を需要の予測と供給量の管理のために扱う。

【授業内容】

- 1 経営活動と情報の役割
- 2 直交性
- 3 関数の直交性(1)
- 4 関数の直交性(2)
- 5 フーリエ級数とフーリエ変換(1)
- 6 フーリエ級数とフーリエ変換(2)
- 7 微分方程式と差分方程式(1)
- 8 微分方程式と差分方程式(2)
- 9 経済の変化の分析(1)
- 10 経済の変化の分析(2)
- 11 経済の変化の分析(3)
- 12 需要量と供給量の予測(1)
- 13 需要量と供給量の予測(2)
- 14 需要量と供給量の予測(3)
- 15 まとめ

【成績評価方法】

課題に対するレポートにより評価を行う。成績評価は「経営活動を行う際に扱う課題の本質的な理解ができていないか」という観点から行う。レポートの提出が無い場合は、「欠席」とする。

【予備学習の指示】**【教科書・参考書】**

教材用プリントを必要に応じて配布し、授業の進捗に応じて参考書を紹介します。

【履修条件・注意事項】

授業科目名	経済数学A (2単位)	開講時限	春学期 金曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	1年
担当教員名	立石 寛 (大学院経済学研究 科)	office hour	金曜日 4時限

【講義の目的】

この講義では経済学の勉強をするにあたって、その基礎となる数学事項について習得することを通じて基礎的分析力を育成することを目的とします。

【授業内容】

- 1 はじめに
- 2 数とは
- 3 関数
- 4 連続関数
- 5 1変数関数の微分
- 6 テイラー展開
- 7 多変数関数
- 8 点列とノルム
- 9 多変数関数の微分
- 10 高階の微分
- 11 極値問題
- 12 最適のための1階の必要条件
- 13 制約付きの最適化問題
- 14 Lagrangeの未定乗数法
- 15 Lagrangeの未定乗数法：二階の十分条件

【成績評価方法】

期末試験の結果で判断をする。

【予備学習の指示】

とくになし。

【教科書・参考書】

とくになし。

【履修条件・注意事項】

とくになし。

授業科目名	経済数学B (2単位)	開講時限	春学期 水曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	1年
担当教員名	花崗 誠 (大学院経済学研究 科)	office hour	アポイントメント による

【講義の目的】

本講義の目的は、経済・経営分析に欠かせない基礎的な線形代数学の知識を習得し、基礎的な分析力を培うことにある。

【授業内容】

- 1 経済学と線形代数
- 2 行列の定義とその計算1：行列とは。および和とスカラー倍
- 3 行列の定義とその計算2：行列の積
- 4 行列の標準形と連立一次方程式1：rrefと基本変形
- 5 行列の標準形と連立一次方程式2：連立方程式の解法
- 6 逆行列：定義と性質
- 7 逆行列：掃き出し法による計算
- 8 ベクトルの一次独立性、空間の次元
- 9 空間のベクトル
- 10 行列式1：アイデアと定義
- 11 行列式2：2次、3次正方行列の行列式
- 12 一般の行列式の導出、行列式の性質
- 13 一般の行列式の余因子展開、クラメル公式
- 14 予備日
- 15 まとめ

【成績評価方法】

小テスト(3回、30%)、期末試験(70%)によって測られる学習到達度の観点から評価する。

履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

講義ノートによる予習や復習。

【教科書・参考書】

教科書：講義ノートをウェブページで公開する
参考書：雪江明彦「線形代数学概説」培風館
石村園子「すぐわかる線形代数」東京図書

【履修条件・注意事項】

授業科目名	統計解析 (2単位)	開講時限	春学期 水曜日 1 時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	1年
担当教員名	根本 二郎 (大学院経済学研究 科)	office hour	月曜16:30~18:00 または予約

【講義の目的】

この講義は統計学の基礎の学習を通じて自主的探求力を育成する。確率変数の考え方に基づいて母集団と標本の関係を理解し、一変数の場合の初等的な統計的推測の方法を修得する。特に、母平均に関する推定と検定の問題を軸にして講義を進める。

【授業内容】

- 1 統計的推測の考え方
- 2 標本と母集団
- 3 標本分布(1): 度数分布
- 4 標本分布(2): 代表値(標本平均、標本分散)
- 5 標本分布(3): チェビシェフの不等式
- 6 母集団: 無限母集団と母集団の代表値(母平均、母分散)
- 7 標本と確率
- 8 確率変数と確率分布(1): 連続型と離散型
- 9 確率変数と確率分布(2): 期待値と分散に関する公式
- 10 点推定: 不偏性, 有効性, 一致性(大数法則)
- 11 正規分布と中心極限定理
- 12 区間推定: 母平均の区間推定
- 13 検定(1): 母平均の検定
- 14 検定(2): 仮説の設定, 両側検定と片側検定
- 15 検定(3): 有意水準と検定力(第1種のエラーと第2種のエラー)

【成績評価方法】

基本的に期末試験による。履修取り下げ制度は適用せず、期末試験を受験しなかったものを欠席とみなす。

【予備学習の指示】

この科目は一部を自主学習に委ねている。そのため、自主学習用または復習用の練習問題を適宜配布する。

【教科書・参考書】

教科書: 木下宗七編「入門統計学」(新版)有斐閣
参考書: 宮川公男「基本統計学」有斐閣, 森棟公夫「統計学入門」新世社,
倉田博史・星野崇宏「入門統計解析」東洋経済新報社

【履修条件・注意事項】

高等学校数学ⅡB程度の数学の知識を前提にする。なお、この講義の内容の多くは数学B「確率分布と統計的推測」の内容と重なる。数学Bの教科書を手元において適宜参照することも良い。

授業科目名	経済発展 (2単位)	開講時限	春学期 火曜日 5 時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	薛 進軍 (大学院経済学研究 科附属国際経済政 策研究センター)	office hour	火曜日 4 時限

【講義の目的】

This course will teach you some basic economic theories of

development economics first, then provide a series lessons on economic development in Japan after World War II to present. To attract students and make the lessons easy understanding and interesting, some videos, historical documents, social phenomena, peoples 'story, etc. will be used in the lectures.

This course aims at giving student basic knowledge of Japan and Japanese economy, as well as Japanese culture and society. Promoting mutual understanding between oversea students and Japanese students, enhancing their interesting in economics and cultivating their capability of viewing things independently and doing investigation by themselves, are final goals of the course.

【授業内容】

- 1 Introduction to Development Economics
- 2 Economic Recovery and High Growth in Japan
- 3 The Environmental Cost of Japan's High Growth
- 4 The Japan-US Trade War and its Lessons
- 5 Japanese Bobble Economy and its Lessons
- 6 Flying Geese Paradigm and Oversea Industrial Transformation
- 7 Japan's Climate and Energy Policy
- 8 The Beautiful Japan Plan and Low-carbon Society
- 9 Low-carbon Transportation in Japan
- 10 Birthrate Decline and Aging Society
- 11 Garbage Disposal in Japan
- 12 Japan's Entertainment Industries: Carton, Girls Dancing and Popular Music
- 13 Stories Behind the Nobel Prize Rush
- 14 Discover Japan: Where to go, Where to study, Where to stay, What to eat and What to experience
- 15 Free Discussion

【成績評価方法】

出席40%、期末で授業内容のまとめは60%。
Presence and participation 40%, Summary the contents of the lessons 60%

【予備学習の指示】

【教科書・参考書】

Textbooks: Lesson's contents, PPT, copies and materials will be distributed by TA. Reference books:
八代 尚宏(著)『日本経済論・入門 新版 -- 戦後復興からアベノミクスまで』有斐閣、2017年。M. Todaro, Economic Development, 10th ed. Longman, New York, 2011;
Mark Chuang, 『英語で学ぶ日本の経済とビジネス An Insight in to the Japanese Economy』, Sanshusha, 2014.

【履修条件・注意事項】

この授業は英語で行うのである程度の英語力が必要です。

授業科目名	情報処理 (2単位)	開講時限	秋学期 火曜日 4 時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	中野 牧子	office hour	講義終了後 またはメール等で 別途日程調整

【講義の目的】

この講義では、統計学・計量経済学の基本的な推定方法を学ぶことを通して、自主的探究力を育成することを目的とします。授業前半はExcel、後半はRを使用する予定です。授業では以下の内容を扱いま

すが順番は前後することがあります。

【授業内容】

- 1 イントロダクション
- 2 統計学の復習
- 3 記述統計 (1)
- 4 記述統計 (2)
- 5 Rの使い方の基本
- 6 最小2乗法 (1)
- 7 最小2乗法 (2)
- 8 最小2乗法 (3)
- 9 不均一分散 (1)
- 10 不均一分散 (2)
- 11 系列相関 (1)
- 12 系列相関 (2)
- 13 操作変数法 (1)
- 14 操作変数法 (2)
- 15 まとめ

【成績評価方法】

成績は期末レポートで評価します。
履修取り下げ制度は採用しません。期末レポートを提出しない場合は「欠席」として扱います。

【予備学習の指示】

この授業はソフトの使い方の説明に時間を割くため、統計学・計量経済学に関する理論的な説明には多くの時間を割きません。統計学・計量経済学に関する予備知識があると、授業がより理解しやすいです。

【教科書・参考書】

教科書は使用せず、資料を配布します。参考書は適宜紹介します。

【履修条件・注意事項】

受講者数の上限は100人です。受講希望者が100人を超える場合、抽選を実施します。

授業科目名	日本経済論 (2単位)	開講時限	秋学期 火曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	水谷 研治 (客員教授)	office hour	講義後

【講義の目的】

自主的探求力を育成する。具体的には身近なニュースや経済の仕組みに焦点を当て、それらが理解できるように、必要とされる経済の基礎知識を体系的に提供する。

それを基にして現実の世界や日本の経済の動きを見る力を身につけていただく。そのうえで将来の経済情勢を予想し、対応が考えられるようにする。

【授業内容】

- 1 講義の概要
目的 生きた経済 経済の常識 ドル円相場 経歴の紹介 計画と要望
- 2 経済の見方
経済の捕まえ方 需要と供給 個と全体 4大部門 国内総生産
- 3 人と家計
働くことの意味 収入と支出 貯蓄と借金 借金地獄
- 4 企業と経営
仕入、製造、販売 人、物、金 企業の目的と利益
- 5 国の財政

歳入と歳出 赤字と借金 夕張市より悪い国家財政 財政改革の影響

- 6 国際収支
輸出と輸入 為替相場 貿易収支と経常収支
- 7 海外の経済
アメリカの貿易赤字 ヨーロッパの行方 中国経済の行方 資源国
- 8 金融と資金需給
経済と金融 景気と資金需要 資金の供給 収益性と危険性 借金の限界
- 9 デフレとインフレ
需要と供給と価格 物価指数 名目と実質 生産の条件
- 10 経済政策の効果
金融政策の前提 財政政策の効果 赤字財政の罨
- 11 経済の構造変化
規制と自由化 1次、2次、3次産業 もの作りの重要性
- 12 健康経済学
健康の維持増進 少子高齢化 医療と介護 費用と公共支援 保険と予防
- 13 日本経済の問題点
供給過剰 産業の空洞化 少子高齢化 財政破綻
- 14 日本経済の見通し
インフレへの転換 永遠の衰退へ 大改革による落ち込み
- 15 試験

【成績評価方法】

基本は試験。日常点を加味することがある。
履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

大きな経済の動きに注目し、将来どのような影響を及ぼすかを考える習慣をつけること。

【教科書・参考書】

「財政改革の衝撃---待つも地獄、進むも地獄の日本経済」水谷研治 著 東洋経済新報社

【履修条件・注意事項】

自分の人生へどのように影響するかという観点から社会の大きな動きを見る習慣をつけて欲しい。

授業科目名	大学生のための職業論 (2単位)	開講時限	春学期 水曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	根本 二郎 (大学院経済学研究科)	office hour	月曜16:30~18:00 または予約

【講義の目的】

本講義はキタン会（経済学部同窓会）の協力により、大学、企業、本学OBから招聘した講師による連続講義で構成される。受講者は、講義やグループワークを通じて自主的探求力を培うとともに、専門教育を学ぶ意味と就職して働く意義を問い直し、社会での「働き方、生き方」について理解を深めることを目的とする。詳細な内容は、初回の講義の際のガイダンスで説明する。

【授業内容】

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

【成績評価方法】

レポート（複数回）による。履修取り下げ制度を適用せず、レポートを所定の回数提出しなかったものを欠席とみなす。

【予備学習の指示】

【教科書・参考書】

【履修条件・注意事項】

毎回出席することが重要である。グループワークを行う講義（2回）では、4限の時間帯まで時間を延長して行う場合がある。

授業科目名	(特殊講義) グローバル・ファイナ ンス・マネジメント (2単位)	開講時限	春学期 木曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	高橋 秀徳 (大学院経済学研究科) 佐野 良雄		

【講義の目的】

グローバル資本主義経済の根底を支える金融の役割は極めて重要である。この講義はグローバル人材育成プログラムの一環として、グローバル・ファイナンスの概要をそのメイン・プレイヤーがどのような役割を果たしているのかを理解し、その役割を学ぶ。講義には日本銀行、金融機関、企業からの派遣講師を招聘する。この講義は学生の自主的探究力育成を目的とする。

【授業内容】

1	イントロダクション	大学	4月11日
2	銀行業務1	三井住友銀行	4月18日
3	銀行業務2	三井住友銀行	4月25日
4	銀行業務3	三井住友銀行	5月9日
5	証券業務1	野村証券	5月16日
6	証券業務2	野村証券	5月23日
7	証券業務3	野村証券	5月30日
8	企業活動と金融	日本政策投資銀行	6月6日
9	中央銀行業務1	日本銀行	6月20日
10	中央銀行業務2	日本銀行	6月27日
11	プロジェクト・ファイナンス入門	三井物産	7月4日
12	特別講義	名古屋銀行	7月11日
13	特別講義または課外活動	大学	未定
14	特別講義または課外活動	大学	未定
15	纏め、試験、解説	大学	7月18日

【成績評価方法】

成績評価は、講義内容に関する複数回のレポートまたはテスト、英語テキストに基づく期末試験、出席により行う。履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

日経新聞購読を推奨する。

【教科書・参考書】

講義は原則として配布資料（またはWebsiteよりダウンロード）により行う。英語テキストは『英語で分かるはじめての財務諸表40日間トレーニング』。初回講義で英語テキスト割引購入証を配布する

【履修条件・注意事項】

講義は原則として、ビジネスの第一線で活躍の方に講師をお願いする。遅刻しないこと。講義中の私語は慎み、講義以外目的の携帯電話使用厳禁。講義開始5分前には着席のこと

授業科目名	(特殊講義) グローバル・マニュファ クチャリング・マネジ メント(2単位)	開講時限	春学期 火曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	山田 基成 (大学院経済学研究科) 佐野 良雄	office hour	

【講義の目的】

経済のグローバル化に伴う日本企業の経営課題と対応について、様々な製造業の生産現場運営に関わる基礎知識を中心に実践的に学ぶ。本講義はグローバル人材育成プログラムの一環として、主に企業からの派遣講師により行われる。この講義では実践学習を通して、自主的探究力を育成することを目的とする。

【授業内容】

1	イントロダクション	大学	4月16日
2	海外工場の経営	デンソー	4月23日
3	グローバル企業におけるキャリア・パス	デンソー	5月7日
4	自動車産業の概要と新たなモビリティ社会(1)	トヨタ自動車	5月14日
5	自動車産業の概要と新たなモビリティ社会(2)	トヨタ自動車	5月21日
6	機械設備生産工場の運営(1)	新東工業	5月28日
7	機械設備生産工場の運営(2)	新東工業	6月4日
8	ICT産業の概要	富士通	6月11日
9	ICT産業のグローバル経営と戦略	富士通	6月18日
10	素材産業の概要とグローバル経営(1)	三井化学	6月25日
11	素材産業の概要とグローバル経営(2)	大同特殊鋼	7月2日
12	素材産業の概要とグローバル経営(3)	日本ガイシ	7月9日
13	電機・エレクトロニクス産業の概要とグローバル経営	三菱電機	7月16日
14	特別講義または課外活動	大学	未定
15	纏め、試験、解説	大学	未定

【成績評価方法】

成績評価は、講義内容に関する複数回のレポート、期末試験（ないし期末レポート）、出席により行う。履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

日経新聞購読を推奨する。

【教科書・参考書】

講義は原則として配布資料（またはWebsiteよりダウンロード）により行う。

【履修条件・注意事項】

講義は原則として、ビジネスや行政の第一線で活躍の方に講師をお願いする。遅刻しないこと。講義中の私語は慎み、講義以外目的の携帯電話使用厳禁。講義開始5分前には着席のこと

授業科目名	(特殊講義) グローバル・コーポレート・マネジメント (2単位)	開講時期	秋学期 月曜日 4 時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	樋野 励 (大学院経済学研究科) 佐野 良雄	office hour	

【講義の目的】

企業をめぐる環境は常に変化し世界で競争にさらされている。この動きの激しいビジネス世界において、各企業はどのような戦略の下に企業を経営しているのか。総合商社、流通業、物流（ロジスティクス）、電気機器メーカー、電力会社、テレコム産業等代表的な日本企業や中央官庁の現状と将来を探る。この講義では企業や中央官庁から第一線で活躍する講師を招く。実践学習を通して、自主的探究力を育成することを目的とする。

【授業内容】

1	イントロダクション	大学	10月7日
2	グローバル企業の経営	総合商社 三井物産	10月7日
3	グローバル企業の戦略	総合商社 三井物産	10月21日
4	グローバル企業の経営	総合商社 豊田通商	10月28日
5	グローバル企業の戦略	総合商社 豊田通商	11月11日
6	グローバル企業の経営と戦略	百貨店 松坂屋	11月18日
7	グローバル物流の経営と戦略	損害保険 損保ジャパン日本興亜	11月25日
8	グローバル物流と企業の役割	電気機器 ブラザー工業	12月2日
9	グローバル企業の経営と戦略	電力 中部電力	12月9日
10	グローバル企業の経営と戦略	物流 日本通運	12月16日
11	グローバル物流に関する国の取組	国土交通省	12月23日
12	グローバル企業の経営と戦略	テレコム(1) 未定	12月25日(水)
13	グローバル企業の経営と戦略	テレコム(2) 未定	1月20日
14	課外活動(特別講義または工場見学)		未定
15	課外活動(特別講義または工場見学)		未定

【成績評価方法】

成績評価は、講義内容に関する複数回のレポート、期末試験（ないし期末レポート）、出席により行う。
履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

日経新聞購読を推奨する。

【教科書・参考書】

講義は原則として配布資料（またはWebsiteよりダウンロード）により行う。

【履修条件・注意事項】

講義は原則として、ビジネスの第一線で活躍の方に講師をお願いする。遅刻、講義中の私語、携帯電話の使用厳禁。講義開始5分前には着席のこと。

授業科目名	(特殊講義) リーダーシップ 開発入門 (2単位)	開講時期	春学期 水曜日 2 時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	2年生
担当教員名	松岡 洋祐 (株式会社イノベスト) 江夏 幾多郎 (大学院経済学研究科)	office hour	江夏とメールで事前に日程調整を行うこと

【講義の目的】

本講義では、ビジネスプラン提案のためのグループ活動を通じて、受講生一人ひとりの自主的探究力、より具体的には、「世界標準のリーダーシップ」の取得が目指される。ここで言うリーダーシップとは、上下関係にない相手を適切な方向に導く力を指す。リーダーシップ基礎概念の理解を、ワークショップならびにビジネスゲームを中心とした相互型学習形式で行う。リーダーシップ持論の構築に至る様々な経験の過程で、自分らしいリーダーシップの発揮の仕方について内省し、具体的な行動の発揮を体感する。

【授業内容】

1	導入：授業のゴール説明とリーダーシップミニ体験
2	リーダーシップ基本概念の理解：世界標準のリーダーシップ
3	リーダーシップ発揮に必要なスキル：質問力（1）
4	リーダーシップ発揮に必要なスキル：質問力（2）
5	リーダーシップ発揮に必要なスキル：フィードバック（1）
6	リーダーシップ発揮に必要なスキル：フィードバック（2）
7	リーダーシップ発揮に必要なスキル：論理思考
8	リーダーシップ持論の構築
9	ミニプロジェクトキックオフ
10	プロジェクトへのフィードバック
11	プロジェクト成果発表
12	リーダーシップ持論の発表
13	リーダーシップ宣言とリーダーシップ開発プロセスの説明
14	（予備日）
15	（予備日）

【成績評価方法】

平常点のみで評価する。平常点は、出席、クラス全体への発言の量と質、グループのプロジェクト成果、提出物（毎週）の提出度と質からなる。特段の事情がない限り、初回講義への参加がない者による履修は認めない。初回講義では2回目以降の継続参加の意思確認を受講生に対して行うが、そこで意向表明しない者による履修取り下げは認める。応募多数の場合の選抜（後述）に漏れた者についても同様である。

【予備学習の指示】

各回の講義（特にディスカッション）のための予習を求める。また、最終的にビジネスプランを提案するため、講義内容の復習や、チーム単位での追加的な情報収集が求められる。

【教科書・参考書】

受講生にぜひ読んでいただきたい参考文献として、以下を挙げる。
伊賀泰代（2012）『採用基準』ダイヤモンド社、スーザン・コミベス他（2017）『リーダーシップの探求』早稲田大学出版部。

【履修条件・注意事項】

ディスカッション主体のこの講義では、履修者の上限を50名と定める。適宜選抜を行うため、履修を希望する者は、初回講義の際に示す課題に対応すること。

授業科目名	(特殊講義) リーダーシップ 開発実践 (2単位)	開講時限	秋学期 丹曜日 5 時限 木
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	2年生
担当教員名	松岡 洋祐 (株式会社イノベスト) 土井 康裕 (大学院経済学研究科)	office hour	

【講義の目的】

本講義では、ビジネスプラン提案のためのグループ活動を通じて、受講生一人ひとりの自主的探求力、より具体的には、「世界標準のリーダーシップ」の取得と発揮が目指される。受講生には、現実の企業課題にコンサルタントとして向き合い、協力企業の実務家と適宜折衝しながら、ビジネスプランの提出とリーダーシップの取得・発揮を行ってもらう。

【授業内容】

- 1 導入：クライアントと解決課題の告知・説明・チームビルディング
- 2 態度スキルのインプット：リーダーシップ
- 3 必要なスキルの指導：プロジェクトマネジメントにおける時間とタスクの管理
- 4 必要なスキルの指導：ビジネスプランの提案
- 5 必要なスキルの指導：仮説の構築・検証
- 6 必要な知識のインプット：ビジネスモデルの構築 (1)
- 7 必要な知識のインプット：ビジネスモデルの構築 (2)
- 8 中間プレゼンテーション
- 9 中間振り返り：プラン内容と発揮したリーダーシップへのフィードバック
- 10 プランのシミュレーション：論理・財務シミュレーション
- 11 最終発表への準備
- 12 最終プレゼンテーション
- 13 振り返り：チーム活動と個人活動の振り返り、改善計画の策定・共有
- 14 (予備日)
- 15 (予備日)

【成績評価方法】

平常点のみで評価する。平常点は、出席、クラス全体への発言の量と質、グループのプロジェクト成果、提出物(毎週)の提出度と質からなる。特段の事情がない限り、初回講義への参加がない者による履修は認めない。初回講義では2回目以降の継続参加の意思確認を受講生に対して行うが、そこで意向表明しない者による履修取り下げは認める。応募多数の場合の選抜(後述)に漏れた者についても同様である。

【予備学習の指示】

各回の講義(特にディスカッション)のための予習を求める。また、最終的にビジネスプランを提案するため、講義内容の復習や、チーム単位での追加的な情報収集が求められる。

【教科書・参考書】

受講生にぜひ読んでいただきたい参考文献として、以下を挙げる。伊賀泰代(2012)『採用基準』ダイヤモンド社、スーザン・コミベス他(2017)『リーダーシップの探求』早稲田大学出版部。

【履修条件・注意事項】

ディスカッション主体のこの講義では、履修者の上限を50名と定める。適宜選抜を行うため、履修を希望する者は、初回講義の際に示す課題に対応すること。なお、本講義は、経済学部専門系科目「リーダーシップ開発入門」の履修者を想定した構成となっているが、未履

修者の参加も可能である。

授業科目名	(特殊講義) アセット・マネ ジメント概論 (2単位)	開講時限	秋学期 火曜日 5 時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	木村 彰吾 (大学院経済学研究科) 峯岸 信哉 (名古屋経済大学)	office hour	

【講義の目的】

経済の成熟期を迎えた我が国において、新しい産業や雇用を創出するような成長分野への投資の重要性が増している。そこで鍵となるのが(長期)投資であるが、その資金の出し手としては年金等の機関投資家のみならず、個人も大きな役割を果たすことが期待されている。また、個人の人生設計においても、労働賃金の成長が鈍化するなかで、金融商品を活用した投資による資産形成の重要性が日々増している。

本講義は、当該分野での専門家を各回外部講師として招き、アセットマネジメント(資産運用)に関する基本的な知識から実務に関するまで、幅広いテーマで講義を行う。これを通じて、自主的探究力の育成を目指す。なお、本講義は、日本投資顧問業協会および投資信託協会からの支援によって開講される。

【授業内容】

- 1 投資資産(株式・債券)のリスクとリターン
- 2 アセット・マネジメントとは
- 3 アセット・アロケーションと分散投資
- 4 マーケットを知る～模擬取引〔シミュレーション・ゲーム〕
- 5 投資信託
- 6 金融商品取引法とアセット・マネジメント
- 7 ヘッジファンド
- 8 R E I T (不動産投資信託)
- 9 資産運用業とコンプライアンス
- 10 株主によるガバナンスと企業行動・企業価値
- 11 ファンドマネジャー・アナリストの業務
- 12 エコノミスト・ストラテジストの業務
- 13 日本の年金制度とアセット・アロケーション
- 14 アセット・マネジメント・ビジネスの最先端(経営者が語る)
- 15 まとめ

【成績評価方法】

定期試験で評価する。履修取り下げ制度を採用しないため、定期試験を受験しない者は「欠席」とする。

【予備学習の指示】

日頃から、日本経済新聞などの経済新聞を読むこと

【教科書・参考書】

必要に応じて紹介する。

【履修条件・注意事項】

私語や携帯電話の使用を慎むこと。また、講義途中での退席は認めない。

授業科目名	(特殊講義) Introductory Accounting II (2単位)	開講時限	春学期 月曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	アーマドバ・メーリバン (大学院経済学研究 科)	office hour	Appointment by email (m.ahmadova@soec. nagoya-u.ac.jp)

【講義の目的】

The purpose of this course is to introduce basic accounting concepts and develop understanding of financial accounting. You will learn to read, analyze and understand financial information provided by companies.

【授業内容】

- 1 Class instruction, orientation
- 2 Financial accounting basics: Review
- 3 Financial accounting basics: Review
- 4 Financial accounting basics: Review
- 5 Time value of money
- 6 Cash and receivables
- 7 Inventories I
- 8 Inventories II
- 9 Property, plant & equipment
- 10 Depreciation, impairment, depletion
- 11 Intangible assets
- 12 Earnings per share
- 13 Investments
- 14 Financial statement analysis
- 15 Final Exam or Essay

【成績評価方法】

Active participation in the class, homework (if assigned), periodic quizzes (60%) and final exam (40%).

The procedure for “withdrawing the course” will not be applied. Not attending the final exam will be graded as ‘Absent’.

【予備学習の指示】

None

【教科書・参考書】

Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield (2018) Intermediate accounting, IFRS ed., 3rd ed
ISBN: 9781119372936

【履修条件・注意事項】

Any changes in syllabus or updates will be announced through NUCT.

授業科目名	(特殊講義) IPO基礎講座 (2単位)	開講時限	秋学期 木曜日 5 時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	木村 彰吾 (大学院経済学研究 科)	office hour	要アポイントメント

【講義の目的】

近年におけるIPO市場の活性化に鑑み、起業からIPOを経て上場企業になるまでを体系的に理解し、自主的探究力、具体的には起業力の育成を、この講義の目的とします。企業等からの協力に基づき、IPOに関する業務の経験者を外部講師として招聘し、実践的な講義内容にする方針です。

【授業内容】

- 1 イントロダクション
- 2 会社を起業するには
- 3 株式会社の基礎 (会社の機関・株主総会)
- 4 ベンチャー起業・経営体験談①
- 5 上場を目指すためには (ショートレビュー)
- 6 企業の成長戦略
- 7 事業計画の作成
- 8 IPOサポート機関との関係
- 9 内部統制・会社の機関設計
- 10 上場申請書類および上場審査対応
- 11 上場会社として求められること (投資家との関係)
- 12 IPOにより変わる企業
- 13 ベンチャー起業・経営体験談②
- 14 企業が求める人材とは
- 15 企業訪問

【成績評価方法】

出席およびレポートを総合的に評価します。

履修取り下げ制度を適用しません。期限までにレポートを提出しない場合に、評価が「欠席」となります。

【予備学習の指示】

事前に指示をした企業等のHPを確認することを推奨します。

【教科書・参考書】

上阪徹 (2012) 『リブセンス (生きる意味) - 25歳の最年少上場社長村上太一の人を幸せにする仕事』 日経BP社

藤野英人 (2013) 『「起業」の歩き方—リアルストーリーでわかる創業から上場までの50のポイント』 実務教育出版

【履修条件・注意事項】

遅刻、講義中の私語、携帯電話の使用は禁止です。

日程とゲストスピーカーについては変更の可能性があります。

授業科目名	(特殊講義) 財務・金融行政実務 (2単位)	開講時限	秋学期 木曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	2～4年
担当教員名	飯島 信幸 齋川 浩司 (国際経済政策研究 センター)	office hour	講義終了後又は随 時予約

【講義の目的】

財政金融当局市行政官による所管行政について市講義を通じて、我が国経済が抱える政策課題及び行政課題について市自主的探求力を育成することを目的とします。

【】内容】

- 1 オリエンテーション・日本経済・財政市現状と課題
東海財務局
- 2 東海地域の経済—東海経済の特徴と今後の課題等
東海財務局
- 3 財政1—財政と税制—社会保障・税の一体改革
財務省
- 4 財政2—日本の財政と私たちの暮らし
東海財務局
- 5 財政3—関税政策
財務省

- 6 財政4—税関行政～税関の役割～ 名古屋税関
- 7 財政5—国有財産—国有財産の概要、国有地の売却、身近な国有地 東海財務局
- 8 財政6—税務行政について 名古屋国税局
- 9 国際政策—国際金融政策等 財務省
- 10 金融1—金融の役割と重要性、地域との関わり 東海財務局
- 11 金融2—金融機能の安定、預金者保護 東海財務局
- 12 金融3—金融機関の業務の健全性、適切性の確保のために 東海財務局
- 13 金融4—金融商品分野の基礎知識・証券検査の実務 東海財務局
- 14 金融5—金融サービスと利用者保護 東海財務局
- 15 予備・まとめ 東海財務局

【成績評価方法】

毎回、提出する講義内容に関するアンケート課題（50%）と期末試験（50%）の成績で評価する。履修取り下げ制度を採用しない。

【予備学習の指示】

講義において時事問題に触れることもあるので、新聞に目を通し、日頃から財政、金融及び経済への関心を深めておくこと。

【教科書・参考書】

毎回、原則、レジュメをNUCTに事前配付するので、NUCT掲載の資料を持参すること(講師の都合でNUCTで事前配付しない場合は、講義時の資料配付、スライドの映写等により講義を行う。)

【履修条件・注意事項】

講師の都合により授業の順序・内容等が変更されることがある。

授業科目名	(特殊講義) International Communication (2単位)	開講時限	秋学期 木曜日 5時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	1～4年
担当教員名	志賀 奈月美 (大学院経済学研究 科)	office hour	

【講義の目的】

In this course, students will have opportunities to conduct group works. In each class, we try to form several mixed-groups of Japanese students and international students to discuss about different types of issues and topics. The purpose of this course is to enhance the ability to persuade people who have different cultural backgrounds to understand and conclude your team resolution. The course will be taught mainly in English, but we may ask students to use Japanese and non-verbal communication for a group work.

【授業内容】

- 1 Introduction
- 2 Group Work (1)
- 3 Group Work (2)
- 4 Group Work (3)
- 5 Group Work (4)
- 6 Group Work (5)
- 7 Group Work (6)
- 8 Group Work (6)
- 9 Group Work (7)
- 10 Group Work (7)

- 11 Group Work (8)
- 12 Group Work (8)
- 13 Group Work (9)
- 14 Group Work (9)
- 15 Conclusion

【成績評価方法】

Attendance and Participation

【予備学習の指示】

Each research field of the students.

Students should prepare some preliminary researches about each topic given in advance.

【教科書・参考書】

None

【履修条件・注意事項】

This course belongs to lecture series of the “Global Soft-Infra structure Program (GSIP).” It is highly recommended to join this course for students who are willing to apply for the outbound program.

In case of too many registration, we will limit the number of students.

授業科目名	(特殊講義) 金融リテラシー (イオン銀行寄付講義) (2単位)	開講時限	春学期 木曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	2年生
担当教員名	黒田隆 (イオン銀行取締役 兼執行役員)他 コーディネータ: 清水克俊 (大学院経済学研究科)	office hour	講義終了後

【講義の目的】

本講義は株式会社イオン銀行の寄付講義です。イオン銀行の複数の担当者が講義を行います。現代社会では、金融とのかかわりをもつことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することができるようになる実践的な力を身につけ、自主的探究力を育成することが本講座の目標です。

【授業内容】

- 1 金融経済教育の重要性
- 2 人生とお金
- 3 お金を稼ぐ（職業選択・収支管理・社会保障制度）
- 4 お金と経済（金融経済の環境変化とその対応方法）
- 5 ライフプランを描く①（ライフプランニング基礎）
- 6 ライフプランを描く②（キャッシュフロー分析演習）
- 7 お金を借りる①（クレジットローンについて）
- 8 お金を借りる②（住宅ローンの仕組み）
- 9 お金をふやす①（投資の意義）
- 10 お金をふやす②（投資の基本）
- 11 リスクに備える①（人生におけるリスク）
- 12 リスクに備える②（生活に潜むリスク）
- 13 トラブルに強くなる
- 14 ライフプランを描く③（ライフプランに関する討議）

【成績評価方法】

ミニテストおよび最終試験（またはレポート）の点数により学習到達度の観点から単位を付与する。履修取り下げ制度を採用する。

【予備学習の指示】

配布資料・web上の参考資料を事後に読むこと。

【教科書・参考書】

なし（資料については開講時に指示する）

【履修条件・注意事項】

履修制限が必要な場合は2年生を優先的に受講させる。

授業科目名	(特殊講義) 国際ものづくり 経済入門1 (2単位)	開講時限	通年集中
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	全学年
担当教員名	土井 康裕 (大学院経済学研究科) 志賀 奈月美 (大学院経済学研究科)	office hour	

【講義の目的】

ものづくりの拠点である名古屋と、急速に発展しものづくりの拠点となりつつあるベトナムについて、学生が相互に交流することを通じて、学び合う場を提供します。ベトナム外国貿易大学（FTU）会計・監査学部とのJASSO海外留学支援制度（協定受入）のために開設する講義で、FTUへのJASSO海外留学支援制度（協定派遣）に応募する学生は、本講義の履修が推奨されます。ものづくり経済に関する講義・工場見学・討論を通じて、自主的探求力を育成することを目的とします。FTU学生向けのプログラムに付き、講義・討論はほぼすべて英語で実施される。The purpose of this lecture is to provide opportunity for Foreign Trade University students to visit Nagoya based on JASSO Short Stay Program, and have opportunity to discuss with Nagoya University students and visit factory of Japanese manufacturing company. Nagoya is the center of manufacturing industries, and Viet Nam is becoming a new manufacturing area in Asia. It is recommended for students who applied for JASSO Short Visit Program to FTU to attend this lecture. Most of the lectures/discussions will be done in English.

【授業内容】

- 1 Introduction
- 2 Lecture
- 3 Discussion <University students' life in Japan>
- 4 Factory Visit (1)
- 5 Factory Visit (2)
- 6 Lecture
- 7 Company Visit (1)
- 8 Company Visit (2)
- 9 Japanese Culture Experience (1) Flower Arrangement
- 10 Japanese Culture Experience (2)
- 11 Joint Study Session for Project
- 12 Presentation for Project
- 13 Company Visit (3)
- 14 Company Visit (4)
- 15 Summary Lecture & Submission of Final Report

【成績評価方法】

Attendance (50%) and essay (50%). "Absent" if you do not attend the class four times or more. 履修取り下げ制度を採用しません。4回以上欠席すると「欠席」と評価します。

【予備学習の指示】

Read the website of Nagoya University Global HR Development Program.

【履修条件・注意事項】

Most of the classes are done in English for FTU student, therefore positive participation to the program is highly recommended. FTU交換留学生向けに講義およびDiscussionは英語で行うので積極的にCommunicationを図ることが望まれます。

授業科目名	(特殊講義) 国際ものづくり 経済入門2 (2単位)	開講時限	通年集中
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学 科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	土井 康裕 (大学院経済学研究科) 志賀 奈月美 (大学院経済学研究科)	office hour	

【講義の目的】

ものづくりの拠点である名古屋と、急速に発展しものづくりの拠点となりつつあるベトナムについて、学生が相互に交流することを通じて学び合う場を提供します。ベトナム外国貿易大学（FTU）会計・監査学部へのJASSO海外留学支援制度（協定派遣）のために開設する講義であり、学生による論文発表会・討論・会社訪問・工場見学を通じて、自主的探求力を育成することを目的とします。講義の一部は英語で実施します。The purpose of this lecture is to provide opportunity for visiting Foreign Trade University (FTU) in Hanoi, Vietnam, based on JASSO Short Visit Program. Presentation of academic papers at the conference with FTU students will be the main part of this lecture, but the Program will also include opportunity to attend lectures at FTU, company and factory visits. A part of the lecture will be done in English.

【授業内容】

- 1 事前学習（序論）
- 2 事前学習（渡航準備手続）
- 3 事前学習（Lecture）
- 4 事前学習（論文作法とプレゼンテーション）
- 5 事前学習（論文選考）
- 6 事前学習（論文選考）
- 7 事前学習（発表練習）
- 8 事前学習（発表練習）
- 9 FTU (Quang Ninh Campus) Joint Discussion Quang Ninh
- 10 FTU (Hanoi Campus) Students' Conference Hanoi
- 11 FTU (Hanoi Campus) Students' Conference Hanoi
- 12 Factory Visit Haiphong
- 13 FTU (Hanoi Campus) Lecture Hanoi
- 14 FTU (HCMC Campus) Joint Discussion Ho Chi Ming City
- 15 成果報告会

【成績評価方法】

Attendance (50%) and paper presentation (50%). "Absent" if you fail to attend the class four times or more. 履修取り下げ制度を採用しません。4回以上欠席すると「欠席」と評価します。

【予備学習の指示】

選抜された論文に関してはHanoiにおける“Students' Conference”における英語のプレゼンテーション実施を必須とします。他の論文は「概要」提出を必須とします。Paper or abstract will be required for registration and full paper if accepted for presentation at the students' conference.

【履修条件・注意事項】

Discussion and presentations are done in English, therefore positive participation to the program is highly recommended. FTUとの交換Presentation・講義およびDiscussionは英語で行うので積極的にCommunicationを図ることが望まれます。

授業科目名	職業指導 (2単位)	開講時限	春学期 金曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経営学科関連専門 科目	配当年次	2・3・4年
担当教員名	小田 博一	office hour	金曜日 4限授業後

【講義の目的】

この講義は、職業生活及び産業界の現状と課題を理解することにより、職業生活と職業選択に関する自主的探究力の育成を図る。

【授業内容】

- 1 学校から職業への移行
- 2 キャリア教育と社会人基礎力の育成
- 3 インターンシップの実態と意義
- 4 職業適性と自己理解
- 5 主要産業の現状と課題
- 6 産業と職業のこれから
- 7 官公庁・公的部門の現状と雇用
- 8 会社組織の現状と課題
- 9 会社の各部署と仕事内容
- 10 日本の雇用システムの特徴
- 11 会社の人材活用とキャリア形成
- 12 ワーク・ライフ・バランスと働き方改革
- 13 働く者のためのワーキングルール
- 14 仕事の基本とマナー
- 15 まとめ

【成績評価方法】

期末テスト (50%)、小レポート・毎回のワーキングシート (30%)、授業参加態度 (20%) を総合して評価する。

【予備学習の指示】

講義で指示されたテーマについて、関連文献・Webサイトなどで調べる。

【教科書・参考書】

濱口桂一郎『若者と労働 「入社」の仕組みから解きほぐす』(2014年、中公新書ラクレ)
佐藤博樹・武石恵美子『職場のワーク・ライフ・バランス』(2010年、日経文庫)
文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』(2012年、文部科学省HP)

【履修条件・注意事項】

履修登録は必ずポータル・サイトから行うこと。履修取り下げ制度を採用しない。欠席が講義時数の3分の1を超える場合、成績は「欠席」とする。30分を超える遅刻又は早退は欠席とする。

授業科目名	(特殊講義) Health economics and financing (2単位)	開講時限	秋学期 木曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年生
担当教員名	Cheb Hoeurn	office hour	

講義の目的

This course aims to introduce students to the basics of health economics and financing. The course divides into four sections. The first section introduces the basic microeconomic concept in health, such as demand for health, the production of health, and market failure in the health sector. The second part introduces the two crucial concepts in health economics and financing—efficiency and equity. The third section will introduce students to health financing. It covers health financing, risk pooling, and resource allocation. They are the central concept for universal health coverage. The fourth section aims to equip students with skills in researching and analyzing health inequality and equity. It covers four topics, including the cost of illness, catastrophic health expenditure and impoverishment, financing incidence analysis, and benefit incidence analysis.

授業内容

1	Health economics and financing: an introduction
2	Demand for health capital
3	The production of health
4	Market failure in the health sector
5	Efficiency
6	Equity
7	Health financing
8	Risk pooling
9	Resource allocation
10	Cost of illness
11	Catastrophic health expenditure and impoverishment
12	Financing incidence analysis
13	Benefit incidence analysis
14	Presentation preparation
15	Group/Individual presentation

成績評価方法

The evaluation will be based on the term paper (75%) and presentation (25%).

予備学習の指示

Students will be assigned to a country of interest. They are requested to analyze the following topics.

1. Health financing
2. Risk pooling
3. Resource allocation

The presentation is expected to take 15-20 minutes

教科書・参考書

Sherman Folland, Allen C. Goodman, Miron Stano. 2013. The Economics of Health and Health Care, 8th Edition, Pearson.

Guinness Lorna & Wiseman, Virginia. 2011. Introduction to Health Economics, 2nd Edition, Open University Press.

Other textbooks:

Alexander S. Preker and Guy Carrin 2004. Health financing for the poor people: resource mobilization and risk sharing. World Bank.

Alexander S. Preker and John C. Langenbrunner 2005. Spending wisely: Buying health service for the poor. World Bank.

Davinson R. Gwatkin 2005. Reaching the poor with health, nutrition, and population services. World Bank.

O'Donnell Owen, van Doorslaer Eddy, Wagstaff Adam, Lindelow Magnus. 2008. Analyzing health equity using household survey data: A guide to techniques and their implementation. World Bank.

履修条件・注意事項

Basic statistics and basic microeconomics are required to understand the course.

English is the medium of instruction for the course.